

(七理二冊目) 20年5月30日  
~ 11月30日



Ⓔ  
No. 12  
六十枚 定價參拾貳錢  
東京・日本ノ一ト製

七理美知子

學用ノ一ト統制株式會社

楽しい寶探しになった。もう一生懸命さがした。でも一枚も拾へなかった。今日は小包が来たので、うれしくてたまらない。早く見たい。

小包  
うれしい



五月三十一日(木曜日)晴

午前中お洗濯をした。今日もとても暑く、お洗濯が終わってから、昨日来た小包を見た。もんぺや、いろいろな物が入っていた。午後、荷物の整理をした。もう明日からは六月。夏服を出したりした。それが終わってから中洲へ行つて遊んだ。川の中に入ったり、相良さん、吉田さんとお山を作り、幼稚園のころのやうにトンネルを作ったりした。今日吉波さんのお兄様が歸つていらした。

六月一日(金曜日)晴

今日からは六月だ。こちらへ来てから、約二月に  
なる。今月(もう)もしつかり頑張りよう。  
お辨當を持って山採取りに行った。今日も山  
をのぼって行った。頂上に着いた。とても見はら  
しがいい。お辨當がすんでから、坂になつてゐ  
る。ささやがをのぼりながら、わらびを取つた。  
まるで、みつ林みたりだ。兵衛さんの御苦  
勞がどんなであるかがわかつた。とてもすべるので、  
ささにつかまって、のぼつた。よく見ると、ささか  
げに太いのが澤山あつた。



六月二日(土曜日)雨  
昨日、あんなよいお天気だったのに、今日は  
雨だ。つまらない。一時間目と二時間目は、  
散ばつて  
した。  
とても  
さつぱり  
した。



今日は朝から、先生がたが必勝餅つき  
をなさつた。私達の中で、焼けた人が元氣を  
つけて、しつかりこの戦に勝ち抜く為ださうだ。  
夕食に、先生方が一生懸命ついで下さつた。あ  
んなころ餅を頂つた。とてもおいし(作)りかつた。  
私は、先生方が私達のためにこんなにして下  
さるのだから、しつかりと、勉強運動にはげまな  
ければならぬと思つた。

戦争に  
勝ちめくための  
がんばり餅

エイエイエイ



五月三日(日曜日) 晴

今日はよいお天気だ。でもとても風がひどい。吹き飛ばされさうだ。

午前中全校総練があった。始めしゅうるの球をした。私達白は勝った。あと、全身体で三色合戦をした。きりこみのつもりで敵に進んで行った。最後に分列行進をして、終わった。

午後かみ洗をした。とてもさっぱりして、気持ちがよ(寮へ帰って)くくなった。

夜、お風呂に入って、すぐ寝た。體がぽかぽかしてとても寝ごこちがよい。すぐねてしまった。

今日は 五月四日 月曜日 晴

朝早く起きてかけ足をした。私は早起きは、氣持がよくてすきだ。

今日も午後から、立野ヶ原で夜間訓練があった。夕食の時、又、頑張があった。とてもおいしかった。(おみあつけに)

たからさがしの時は、今日こそと、思ってた。生懸命さがした。なかなかみつからない。しゃくにさわって、土をけらうとしたら、土の下に、紙が見えた。急いで、土をのけると、たから紙だ。うれしくてたまらなり。あけて見ると、すするめと書いてあった。

(私達)

守備軍と、女撃手軍との戦ひになった。白旗のそばに行けばよいのだ。見づからないうには、はひながら、進んで行った。今日は、ぐっすり寝むった。



六月五日(火曜) 晴

午前中、夜間訓練の感想文を書いた。これは主事先生にさし上げるのださうだ。午後日記を書いた。その時、おはがきを下さったお母様からだ。もうすぐ、面會にいらっしやるさうだ。うれしい。夕食まで、おみ物をしてみた。

六月六日 (水曜日) 晴  
 朝早く起きて、しきいをお洗濯した。私は敷布を洗ふのは今日が始めてだ。一つのを四人で洗った。ゆすぎは川でした。今日は心づう通り授業があつた。



繪は威いひきき面白。字をもうかしていかに書く様には意いなき。文をもうかして研究す。日りの生浪の反者をまらまらいり。早よ。変るすき方も研究しなさい

六月七日 (木曜日) 雨

今日は朝から雨が降つてゐる。修身の時間に、勅語のことをお習ひした。それから日記のこことおつしやうた。私はきれいに書いてつばな、日記帳にしやうと思つた。午後、ここもたろくつだったので、前の日記を見たり、外の

景色を眺めたりした。



六月八日 (金曜日) 雨

今日も雨降りだ。お庭のしゃくやくの花、せうかくきれいに咲き始めたのに、雨で下にたれて、いかにもさびれさうだ。

朝食後、大詔奉讀式があつた。大東亞戦争が始つてから、もう四年たつのだ。私は、詔書をお聞きして、(ヤ)しつかり、頑張らなければならぬと思つた。午後から、北支の兵隊さんへ慰問文を書いた。心をこめて、一生懸命書いた。



六月九日（土曜日）雨のち晴

今日も朝からきり雨が降ってゐる。山菜取りも中止になった。それで、平日通り授業があった。

午後からは、からりと、よい天気になった。炊事場で、なつば洗ひをした。お家でも、よく、おもしろがつて、やったものだ。きれいに洗った。

六月十日

日曜日 晴

今日は、時の記念日だ。しつかり時間を守って、一日リッぱに過さうと思つた。

とてもよいお天気なので

朝から山菜取りに行つた。

汗がたらたら出て来る。でも一生懸命取つた。お辨當は、ひばりのさえづる下で、楽しく頂いた。

夜、お風呂に入った。増産だ。

あまり、氣持がよ

いので、つかれもどつかへ、帰んで行つて



しまったやうな氣がした。

六月十一日（月曜日）晴

外へ出て見ると、しゃくやくが、とてもきり水に咲いてゐた。

今日は、休養なので

午前中、お洗濯をした。きれいに洗った。

午後は、寮舎へ歸つて、日記を書いたり、トランプをしたりした。

とても暑い。ガラス戸を開け、そこへすわつて、遊んだ。風が吹いて来て、とても涼しい。午後は、とても長いヤラ（るの）に感じた。

六月十二日（火曜日）雨

今日は、雨が降つてゐる。午前中、授業があった。午後、とてもたいくつだった。着替形ミ作つたりして、遊んだ。

冬服や夏服を、澤山作つた。紙の洋服だからすぐ出来る。五時ごろ、大島さんのお母様が面會にいらした。私は、私のお母様がいらしたやうに、うれしかった。寮舎へ歸つて、東京のお話を

お國のための



お聞きした。

六月十三日 水曜日 雨

今日も空はどんよりと曇つてゐて、今にもさあーと雨が降つて来さうだ。お當番なので、さうきんをゆすぎに外へ出て見ると、さうきりだ。つみさへ見えなない。私は、山のことを思ひ出した。山はもつとすごいだらう。しばらくすると、きり雨が降り出した。裁縫の時間に、いよいよもんぺいをたつた。自分で作るのだと思ふとうれしくてたまらなない。きれいなのを作らうと思つた。

夕方前田先生がいらした。久しぶりだ。先生もとてもお元気だ。

六月十四日

木曜 雨と晴

今日も雨だ。毎日雨が降りてつまらないう。午後からは雨もやみ、日が照り出した。晴間なのだ。うれしいう。午後には、みんな高田先生の言ひかたを、おけりこした。そのあと、高田先生と一緒に、お散歩した。歩きながら、三葉の花を取って、花輪を作り、並木先生へ



さしあげた。

六月十五日

金曜日 晴

今日もうれしい晴れ間。朝、高田先生はお家へお歸りになつた。私は、先生はお

寂が近くて、いいなあと思つた。朝食後、お辨當を持って、山菜取りに行つた。よくなくならないと思ふほど、澤山ある。一生懸命取つた。でも今日は、少ししか取れなかつた。夕食の後、食器を洗ひ終つて、小こ、うさぎ小屋を見ると、親うさぎが、食べる物がないうらしくかぶせてあつた。わらをかちつてゐる。私は思はず、わ、かはさうだ。こいつてしまった。夜、自由時間遊んでゐる時、高田先生がいらつしやうなりので、何だかさびしいやうな気がした。

六月十六日 土曜日 晴

今日もとてもよいお天気だ。雨雲もどろどろと飛んで行つたのだらう。今日は、休養の日だ。午前中、久しぶりに、みんなで、まりつきをした。よく出来ない。午後には、体重を測り、定をしてから寮舎へ歸り、お晝寝をした。始めは、話をしてゐたが、い



(うさぎ)



鍛

六月十七日  
日曜日 晴

のまにかう  
とうと寝て  
しまつた。

一もんめ  
一ちよ  
二もんめ  
一ちよ



今日もとてもよいお天気だ。午前中全校  
鍛練があつた。今日は、白兵戦、敵が来た時  
に、敵兵を二人も三人もころして、自(上)陸して分  
も死ぬおけいこをした。一生懸命して、沖繩  
のお友達に負けないうやうにするのだ。始め  
お友達に傷をした時、おぶつて、かけるおけい  
こをした。それが終つて、

から、体當り、柔道、手リッパウ弾を投げるお  
けいこ、剣道を一通り教へて頂いた。みんな  
とてもむづかしい。でも、これから、もつとも  
つと、おけいこしないうやうに、おぶつて、に  
くい、お友達を、やつつけようと思つた。

午後は寮舎へ歸つ  
て、髪洗ひをした。こ  
ても、氣持がよくてさ  
つぱりした。



夕方高田先生が歸  
つていらした。先生が歸つていらしたので  
なんだかうれしいやうな氣がした。

六月十八日 月曜日 晴

空は青く澄んで、とてもよい天気だ。心もは  
ばれとするやうだ。

今日も桑山へ山菜取りに行った。今日は、六人  
だけだ。あまり少ないのでおかしいうやうな氣がす  
る。大島さんたちの分も取つて来てあげようと思  
つた。とても暑い。いくら汗をかいても、出  
て来る。のぼりは、急な上にとてもすべつてしか  
たがない。がけの所でふきを取つた。大島さん  
達の分も、一生懸命取つた。下りは、とんとん、  
足にまかせて降りて行つた。午後は、  
寮へ歸つて、お晝寝をし  
た。つかれてみたので、ぐっ  
すり寝てしまつた。ふと  
目をさますと先生がふ  
とんをかけてゐて、下さ  
る。私は、寮でお母様が、さ  
つと、ふとんをかけて下さる  
やうな氣がして、うれしかつた。

六月十九日 火曜日 晴



午後から、福光の劇場へ演劇を見に  
行つた。今日やつて下さる方は、わがわが東京から  
私達のために、来て下さつたのだ。おどり、歌、音  
樂などがあつた。みんな感謝して見た。どれも



こ水もとてもおももしろかった。かが出て来たので  
今晚からかやをつり始めた。

六月二十日(水曜日)晴

このごろは、毎日お天氣のよき日が続いてゐる。  
今日も立野ヶ原の方へせり取りに行った。道の  
両側に、ガッサイとソッサイに、澤山せりがある。取  
りながら、歩ソて行った。  
じんじん、袋が一ぱりにな  
つて行く。



お辨當は、小矢部川の  
橋の下の中洲で頂いた。  
そこは、とても涼しい。おな  
かがすいてゐたので、とても  
おししかった。食後、先生  
と一しよに、トラップで、繪取  
りをして遊んだ。一ペンナボとオンになつたが、負け  
てしまった。歸りは、つつみを通つて歸つた。あと  
は、寮舎へ歸つて、お洗濯をした。

六月二十一日(木曜日)晴 発表會に使ふ

今日は、平日通りの授業だ。午前中は、表を書い  
たりし、午後は、寮舎へ歸つて、発表會の練習を  
した。今度は、福光校も見るとだから、しつかりや  
らなければならぬ。  
夜、ほたる取りに行った。田んぼのへんで、澤山

先生とご一しよ

外は、月あかりでとても明  
るい。

光つてゐる。ほかの人  
澤山取りに来てゐた。  
取らうとして、手をのば  
すと、すぐ、逃げてしま  
ふ。私は、一匹をつつみの  
へんで取つた。手をすか  
して見ると、とてもよく  
光つてゐる。みんな、わ  
あ、あ、い、みな、が、取  
つた。五匹くらゐ取れた。でも、最後に、全分はなし  
やつた。光を出して、飛んで行くのは、とてもきれ  
だった。今日のほたる取りは、とてもおももしろか  
た。

六月二十二日(金曜日)晴  
今日は、青少年學徒にたまはりたる勅語記念  
日だ。朝會後、奉讀式があつた。午前午後、  
學校にゐて、発表會の練習を  
し、遊んだりした。寮舎  
へ歸る時、よ(夕食後)  
そのなをば様に、ほたる  
を、澤山頂いた。五十  
匹は、ゐるだらう。袋に  
入つてゐる。光つてゐる  
ころは、とてもきれいだ。もやう見たいに見えろ。



六月二十三日(土曜日)晴  
今日は、平日通りの授業だ。午前中は、表を書い  
たりし、午後は、寮舎へ歸つて、発表會の練習を  
した。今度は、福光校も見るとだから、しつかりや  
らなければならぬ。  
夜、ほたる取りに行った。田んぼのへんで、澤山



先生とご一しよ

外は、月あかりでとても明  
るい。

六月二十三日(土曜日)曇り雨

今日はどんより曇りてゐて今にも雨が降りて来さうだ。午前中、発表會の練習會があつた。みんなとてもおもしろい。私はもう発表會が終つてしまつたやうな気がした。二十五日は、すっかりやう。午後、トラニアなどをして、遊んでゐると、雨がとうとう降り出してしまつた。

六月二十四日(日曜日)雨

「カタカタ、ビュウ」といふ風音で、目がさめた。私は「風がひどくて、いやだなあ」と思った。朝食頂きに行くと、もう風はおだやかになり雨がざあざあ降り出した。又、雨の音がづづくのかしら。……

午後から、青空が出て来て日が照り出した。午後には、講堂で発表會の練習をした。これが最後の練習だ。一生懸命おけいこした。



六月二十五日(月曜日)晴

今日は待ちに待つた発表會だ。それに今日は皇太后陛下のお生まれになつたお目出たい日だし、しっかりと準備をした。會場が出来、お客様をおよびして、始めた。私達は二番目上つてからいよいよだ。

やる前は胸がどきどきしてなかなかおちつけなかつた。今日は、ほかの組もとてもお上手だつた。水に、とても楽しかつた。午後は、寮舎でお洗濯をした。夜を、お月様がとてもきれいでした。お月様がとてもきれいで、見に来ると、お月様が、とてもきれい。

お月様が、とてもきれいで、見に来ると、お月様が、とてもきれい。

お月様が、とてもきれいで、見に来ると、お月様が、とてもきれい。

お月様が、とてもきれいで、見に来ると、お月様が、とてもきれい。

六月二十六日(火曜日)晴

今日は、まき運びだ。太美山まで、取りに行つた。ついでから、まきを、半分、製材所まで、道に運んだ。よそ、つみあげてある、疎開學園と、半分、お辨當は、川の、ふるの、すずしい、所でおいしく頂

歸りは、みな、少しづつ、持つて歸つた。歸りは、行きよりも、早いやうに感じ



六月二十七日(水曜日)晴

今日も薪運びだ。午前中は全員で運び、午後  
は四年以上だけ運んだ。  
二回目は少しづつかれて来た  
が一生懸命運んだ。とて  
もむし暑い。歩いてみると  
汗がたらたら流れて来る。  
夕食後、情報があった。  
沖繩島もついににくら  
しい。米英のために取ら  
れてしまったのだ。沖繩  
の兵隊さん。島々の方は、最後まで戦って下さっ  
たのだ。いよいよ本土決戦になったら、米英をみ  
**私達**國民は、もつともつと決意を固くし  
んな。たたきつけこしまほう。私は、今日のまき運  
びくらおなんでもないと思つた。  
六月二十八日(木曜日)晴  
今日は、久しぶりの、第三日の、授業だ。でも國  
語のほか、**全部**自習なので、寮舎へ歸つて、お  
洗濯をした。今日は、とてもよいお天気だから、す  
ぐかはきこうだ。ていねいに洗つた。(お父様と  
夕食後、先生が三通、お便りを下さった。お母様  
からだ。喜んで讀んだ。中に、小包を送つて下さ  
つたことと、七月に、面會にいらつしやることを書いて



あつたので、うれしくてたまらなかつた。  
夜、ほたる見物に  
行つた。つづみを歩  
いて行つたが、今日☆  
は、一匹も光つていな  
い。「時間が早すぎ  
るのかしら。」などと  
言ひながら歩いた。  
高宮橋の所に来  
ると、あちらこちら  
で光りだした。まるで、お星様が、飛び散つて  
ゐるやうだ。私は、思はず、「きれいな」と言つてし  
まった。澤山のほたるが、飛んでゐる所は、とて  
も、きれいだつた。

六月二十九日(金曜日)晴午後雨  
今日も薪運びだ。今日は、福光の國民學校の方  
も、私達のために、手傳つて下さるのださうだ。私  
達のことなのに、ほんたうに申しわけない。福光の  
方々が、このやうに、やさしくして下さるのだから、私  
達も何かお手傳ひしなくては、ならぬと思つ  
た。ほんたうは、三回運ぶはずだったが、福光の方々  
のおかげで、一回ですんだ。午後は、休養だ。  
私達は、女學校で、トランプをしたリした。



六月三十日(土曜日)曇り雨

空はどんよりと曇って来て、今にも雨が降って来さうだ。しばらくするととうとう降り出してしまった。

朝會後、福光校の朝會後、福光校の先生が、明日御入隊になるので、そのさうこう式があった。終つてから門に整列してお送りした。午後には女學校で日記を書いたりした。

七月一日(日曜日)雨曇

今日からはもう七月だ。こちらへ来てから約三箇月たつてしまふのだ。七月は、私のおたん生日もあるし、お母様も面會にいらつしやる。うしろ月だ。すっかり頑張らうと思つた。今日は日曜日だが、第五日目の授業があつた。

午後からは寮舎へ歸つて髪洗ひをした。とても、さっぱりして、氣持よくなつた。

夜、お風呂に入った。へちまご、きゅっく、こすつて、きれりにあか

髪洗ひ



を落した。

七月二日(月曜日)雨

今日は、休養だ。朝から雨が降つてゐる。ずうっと女學校にゐて、トランプをしたり本を讀んだりした。夕方、お散歩をした。つつみを通り、學園で作つてゐる野菜畠を見に行つた。ふだん草や、たうもろこしなどが、植ゑてあるのださうだ。

七月三日(火曜日)雨の多晴

今日も雨降りだ。午前中は、第一日の授業をした。午後は、阿部先生につれられて、配給所へ、おみやごと、おしょう油を取りに行った。福光橋の向ふだ。私は、塚井さんと、おしょうゆを持つた。ごぼさなりやうに注意して、持つて歸つた。青空が出て来て、とてもよいお天氣になつた。



七月四日(水曜日) 晴つち雨

今日はよのお天気だ。第二日の授業をした。晝食を頂いてみると、急に黒い雲が出て来て、

風が吹き出した。雨が降る。

うちに「さあ」と降り出してしまった。

晝食が終り、よりよ

お裁縫の時間になった。うれしくてたま

らな。また上とま

た下をぬいだ。どんどんぬへる。一生懸

命、いわいにぬいた。あとは、わきと、ゴム通

だけだ。私は、もんぺには、上着より、かんたん

だといふことがわかった。また下もまた上とぬへ

たので、うれしくてたまらなかつた。



七月五日(木曜日) 曇

起きて、お庭を見ると、あ

ぢさの花が、きれいに咲

てゐた。今日も、雨だ。毎日、

毎日雨で、つまらない。第

三日の授業があった。夕

食は、石田先生が、今度、

およめさんをおもひにな



つたので、そのお祝ひに、御ち走があつた。私

は、何だかおかしな気がした。

今日 七月六日(金曜日) 雨

第四日目の授業だ。朝お腹が痛かつたので、

一時間目と二時間目は、音楽室で休んでゐた。

三時間目は、よくなつたので起きて授業をし

た。圖書室でした。お裁縫の時間は、わきと

ひも通しを縫った。もうあと、すそのひも通し

をぬひ、ゴムを通せばもう出来上りだ。

七月七日(土曜日) 雨

今日 支那事変記念日だ。二三時は、運

動場で、明日の結成式の練習があつた。小雨

が降つてゐるし、土も、ぐちゃぐちゃで、所々に

水たまりがある。行進の

時は、水たまりも、かまはず

一生懸命した。

夕食が、すんでから、福光驛

へ、英霊をお迎へに行つた。

やはり、雨は、降つてゐたが、

雨の中で、心から、英霊をお

迎へた。



七月八日(日曜日) 雨

今日も、雨。五時に起床して、六時までには、女

校へ集合した。六時半ごろから、結成式が始つた

(學徒隊)

講堂で、行はれた。私はここで、しっかりと、心  
 体を養ひ、いよいよ、敵が本土に上陸して来たら  
 は必ず、敵をやっつけやうと思つた。式がすん  
 でから、朝食を頂つた。  
 終つてから、寮へ歸り  
 順番に、散髪しに行  
 った。番が来るまで、  
 中支の兵隊さんへ、  
 心をこめて、慰問文  
 を書つた。



午後、髪洗ひをし  
 た。毛が少なりので、とても洗ひやすかつた。夜、  
 お風呂に入った。今日は、散髪もし、髪洗もし  
 お風呂にも入つたので、とても氣持よくなつた。  
 七月九日(月曜日)雨  
 午前中は授業。午後からは町募が、國民學  
 校の講堂であるので、六年生だけ、参加した。

精神は大へんよろしい

日記は毎日たのむやうに

前には、英靈がある。しばらくしてから、お坊さん  
 や、縣知事の方などがいらした。

お經・焼香のなご  
 私達は、おとなしく、  
 見てゐた。  
 町募が終つてから  
 外に出て、英靈を  
 お送りした。



七月十日(火曜日)晴  
 今日、久しぶりによいお天氣だ。朝會も外  
 で、のびのびとした。午前、先生方は、必勝餅つ  
 きで、ソラッシャらなりのので、寮舎へ歸つて、お洗  
 濯をした。今日は、す  
 ぐかはきさうだ。  
 午後、寮舎へ歸つて  
 お晝寝した。  
 夕食の時、先生方  
 が一生懸命つろて下  
 さつた。頑張り餅を  
 頂つた。今日は、きなこに  
 バナナ糖があつた。よくのびて、とてもおろしかつた。



七月十一日(水曜日)曇雨  
 昨日、あんなによいお天氣だつたのに今日は、どん  
 より曇つてゐる。第三日の授業があつた。  
 午後からは、寮舎へ歸り、お書寝をした。寝  
 むたかつたので、知らないうちに寝てしまつた。四時

ごろ、起きた。起きて見ると、いつのまにか雨が降  
ってゐた。

七月十二日(木曜日)雨

今日も雨。つまらないなあ。日に當って、元氣  
に運動したい。

第四日目の授業があ

つた。六年は、図書館で  
した。外では、雨がざあざ  
あ降ってゐる。

晝食がすんでから、すぐ寮

舎へ歸ってお晝寝をし  
た。風が吹いて来て、とても涼しい。三時から、起き  
て、午後の授業をしに行つた。お裁縫だ。ホケ

ットもつけ、いよいよ出来上つた。うれしくてたまら  
ない。先生にお出しして、見て頂いた。夜、自由

時間の時は、<sup>(もんべに)</sup>名前をつけた。

七月十三日(金曜日)雨午後晴

又も雨。早く、梅雨が終るといい。今日は、第

五日目の授業があつた

第四時間目、お習字の

時間は、

みよし野やせくら  
の中の山ひとつの



うれしい



所をお清書した。目をつぶり心を落ちつけ  
てから書いた。午後は、女學校で、日記を書  
いたり本を讀んだりした。

七月十四日(土曜日)晴

今日は、久しぶりにより天気だ。このごろは、毎  
日雨ばかり續き、室の中の生活なので、このよ

日に當るために、立野ヶ

原へお辨當を持って

行軍した。久しぶりに

軍歌を歌ひながら行

つた。つづてから、私達は

高田先生と一しょに、島

道を、ゆっくり歩きなが

ら、近くの村へ行つた。島

には、たばこ、じゃがいも、いねが植えてある。途中

に、あざみが、きらいに咲いてゐ

たので、乙葉さんにあげると

に取つた。

お辨當は、川のかちの木かげ

で手を洗つてから頂つた。

私は、一週間に一度ぐらゐづつ、今日みたり、立

野ヶ原へ、行軍した。いかにあと思つた。

今日は一日とても楽しかった。



七月十五日(日曜日)雨

昨日はあんなによりお天気だったのに、朝から雨が降ってゐる。山も雲が低くて見えないう。

今日は、休養だ。九時ごろから、体重測定があった。(女学校にゐて)

午後は、発表會の練習をした。そして、先生に見て頂いた。あとは、「勇士」の本を讀んだり日記を書いたりした。

三時ごろ、吉田さんのおぢい様が面會にいらした。

七月十六日(月曜日)曇り雨

起きて見ると、薄日がさしてゐた。でも、空は灰色。今にも雨が降って来さうだ。

今日は、第一日の授業があった。授業をしてゐると、雨が降り出してしまった。國史の時間に日本町のところをお習ひした。日本人が、南方へ出かけて行って、貿易



したことだ。夕食後、久しぶりに、疎開學園情報があった。敵機動部隊が東北地方にやって来て、釜石に、艦砲射撃を行ったのだ。いよいよ本土に、どる足をかけやうとした。始めたのだ。うし、やってきたら、てっぺんまで、ヤッつけてしまほう。

七月十七日(火曜日)雨

今日も雨がしとしと降ってゐる。第二日目の授業。一時間、目は、算數の考査があった。分數だ。晝食が終つて、行つたら、しやう。

送行式があつた。今度、前田先生も、来月の十四日に、御入隊になるので、おわかれにいらしたのだ。すんでから、驛まで、お送りした。ついでから、みんな、軍歌「若わしの歌」。「ばんだのさくら」。「轉流」の歌などを元氣に歌つた。最後に、「萬歳」を三唱して、ホィに並んで送りました。



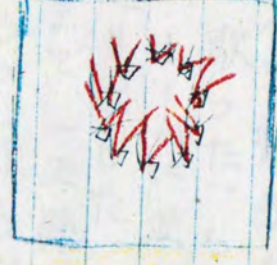
「前田先生元氣でソッてらっしやい。にくい米菓をやッつけて下さい。」



七月十八日(水曜日)雨

雨。第三日の授業があった。地理の時間は、  
は、検査があった。石田先生の検査も、今日が  
最後だ。理科の時間は、私地理の連の體の  
肺のところをお習ひした。  
夜、寮舎へ歸つてから、石  
田先生にさしあげる、十  
人針を作った。たんこぶで  
はなく、結んだ。昔のはむ  
すぶのだったのださうだ。

(十人針)



七月十九日(木曜日)曇らす晴

今日は、曇り。時々うす日がさしてゐる。午前  
中は、先生方は、石田先生送行のお餅つきがあ  
るので、授業は自習だ。寮舎へ歸つてお洗  
濯をした。今日は、お母様が、面會にいらつしやる  
のだ。うれしくてたまらない。早くいらつしやる  
やうないかないなあ。  
午後は、五時から、二号  
室で、送行式があった。  
私は、石田先生のおわか  
れの御あいさつをお聞き  
してゐるうちに、涙がたま  
つて来て、まぶ(しせん)たが  
あつくなつて来た。神社



で、祈願祭も終つてから、いよいよ、晩さん會が  
あった。きなこのついたお餅。御飯。にしんのいた  
の。など御ち走だ。石田先生の御出征をお祝ひ  
をお喜び申し上げ、いつもよりもさうよくかんで  
頂いた。とてもおもしろかった。楽しい晩さんも終  
つてから、二号室に行つて、先生と一しよに、いろい  
ろいろな歌を歌った。私は、最後だと思つて一生  
懸命歌つた。歸るころは眞暗だった。

七月二十日(金曜日)晴

今日は久しぶりによいお天気だ。第五日目の  
授業があった。  
昨日いらつしやらなかつたから、今日はいらつし  
やるかな。早くいらつしやらないかな。一時間目  
の算数は、神社の境内  
で、三きやくにすわつてやつ  
た。午後は、滑空訓練  
所へおじゃがを、取りに行  
つた。バックサック一ぱい持っ  
て歸つた。歸つてから、つか  
れておたので、教室で、寝て  
しまった。  
今日もいらつしやらない。どうしたのかな。汽  
車に乗れなかつたのかな。康夫お兄様はどこ  
ろへよつてらしたのかしら。?心配ー!



七月二十一日(土曜日)雨

今日は、雨だ。まだ梅雨は、終わらないのかしら。ずぬ分長いなあ。六時、四十分までに、女學校に集合し、福光驛へ、石田先生をお送りに行つた。まだ時間があるので、みんな帽子を手に(行く)持ち、いろいろな歌を歌つた。しばらくすると、汽車が来た。私達は、ホームに並んでお送りした。ポ。汽車は走り出した。

「萬歳」見えなくなるまで、一生懸命手をこつた。私は、石田先生がいうつしやうになつてつまらないなあ。と思つた。お晝すぎ、並木先生のお小んを運びに寮舎へ行くと、びっくりした。お父様がすわつていらつしやるのだ。小んを運び終つてから、いろいろなお話をした。夕食が終つて、寮舎へ歸る時、ふと、左を見ると、お母様とお姉様がある。ていつしやる。思はずお母様。と、いつてしまった。寮舎へ歸つて、いろいろなお話をした。お母様も、お姉様もとてもお元氣だ。ああうれしい。ちやうどお父様とお母様と一しょになつていらしたのだ。お聞きしてみると、やっぱり、下呂の康夫お兄様のところによつていらしたのださうだ。しをりなどを



(でおそくなったの)

みんなであけた。

七月二十二日(日曜日)晴

よいお天気だ。今日は、二十二日、青少年學徒にたまはりたる勅語記念日だ。午前中、行軍があつた。お母様は、お父様とお話があるので、お姉様だけ一しょにいらした。ずつと、立野ヶ原の方をまはつて歸つた。午後は、寮舎へ歸つて、午すゐをした。その間、お母様はお洗濯をして下さつた。



お食事の時、ちよつとお母様の方を見ると、お母様の食べてらつしやる所が見えた。夜は、お母様やお姉様の所へ行つて、お話をした。まるで、お家におるやうな氣がして、とてもうれしかつた。

七月二十三日(月曜日)晴

今日もよいお天気。梅雨もやつと終つたらしい。今日は、お母様が、十時の汽車でお歸りになるのだ。ほんた(方)うに月日は早い。もうおかへりの日が来てしまったのだ。朝食後、おわかかし。授業してゐる時でも、お母様の事がきにかかると、四時間目が終ると、教室の戸のところにお母様が立つていらした。びっくりして、お聞きし

てみると、十二時三十何分の汽車におのぼし  
になったのださうだ。晝食がすんでから、先生に  
お許しを受けてすぐ、お送りに行った。

「美知子ちゃんしっかりするのよ。」元氣にするん  
だぞ。「お母様もお元氣でね。」最後にお  
母様がたをなめて下さった。私は、とてもうれし  
かった。しばらくして汽車が

来た。「ぢやあ、ほんたうに元  
氣にね。さやうなら。」さよ  
なら。汽車の戸口で、手を振  
つお母様お姉様は、て下さ

った。私も、待合室で一生懸  
命手を振った。「ホー、ホー、  
車は汽車は、汽笛を残して見  
えなくなりました。私は、何だかさびしりつま  
らなり氣がした。夕方英靈をおむかへした。

七月二十四日（火曜日）晴  
よいお天氣でうれしい。ほんたうに梅雨は終つ  
たらしい。今日は、私の、延生日だ。昭和八年の  
今日、お母様のおなかから、おぎやあ〜、生まれ  
て来たのかと思ふをかしくなる。でも、今までず  
ね今おせわになつたなあ。今では、お母様のもと  
からはなれて疎開して来てゐるのだ。しっかり  
頑張らう。第二日目の授業があつた。一時二



時自習なので、寮へ歸つてお洗濯をした。  
川の水で洗つた。午後には  
音楽室で晝寝をした。

七月二十五日（木曜日）晴  
今日もとてもよいお天氣だ。午  
前中は、薬草を取りに行つ  
た。小矢部あつみで、男子と  
女にわかれ川た。私達は、左側を、  
（子）歩きながら取った。澤山ない。石の所は、下  
駄なのですべって歩きにくい。せまい道を歩きな  
がらやつと橋についた。ちよつと休んですぐ出發に  
なつてしまった。食器袋少ししか取水なかつた。  
今日はとてもつかれた。午後は、女學校で晝  
寝をした。夜寮へ歸つて見ると小色が来てみ  
た。ああよかった。うれしい。中を開けてみると、  
ずぼんや、小さい時から寫眞、ちり紙いろいろ  
な物が入つてゐた。

七月二十六日（木曜日）曇  
今日は曇りだ。第三日の授  
業があつた。でも、午前中は  
全分自習なので、日記を書い  
たり、お家へはがきを書いた。  
晝食後、炊事のをばさんと  
（野菜運ぶ）一しょに、お野菜を取りに行

た。小矢部あつみで、男子と  
女にわかれ川た。私達は、左側を、  
（子）歩きながら取った。澤山ない。石の所は、下  
駄なのですべって歩きにくい。せまい道を歩きな  
がらやつと橋についた。ちよつと休んですぐ出發に  
なつてしまった。食器袋少ししか取水なかつた。  
今日はとてもつかれた。午後は、女學校で晝  
寝をした。夜寮へ歸つて見ると小色が来てみ  
た。ああよかった。うれしい。中を開けてみると、  
ずぼんや、小さい時から寫眞、ちり紙いろいろ  
な物が入つてゐた。

七月二十六日（木曜日）曇  
今日は曇りだ。第三日の授  
業があつた。でも、午前中は  
全分自習なので、日記を書い  
たり、お家へはがきを書いた。  
晝食後、炊事のをばさんと  
（野菜運ぶ）一しょに、お野菜を取りに行

た。小矢部あつみで、男子と  
女にわかれ川た。私達は、左側を、  
（子）歩きながら取った。澤山ない。石の所は、下  
駄なのですべって歩きにくい。せまい道を歩きな  
がらやつと橋についた。ちよつと休んですぐ出發に  
なつてしまった。食器袋少ししか取水なかつた。  
今日はとてもつかれた。午後は、女學校で晝  
寝をした。夜寮へ歸つて見ると小色が来てみ  
た。ああよかった。うれしい。中を開けてみると、  
ずぼんや、小さい時から寫眞、ちり紙いろいろ  
な物が入つてゐた。



つた。キラリ、キヤベフ。小きなじだ。私は乙葉さんと一しょに持って帰った。思ったよりも重かった。あとは、トランプをして遊んだ。

七月二十七日(金曜日)晴

今日はとてもよいお天気だ。お日様もにこにこ笑ってゐる。朝會も久しぶりに運動場で、元氣にした。第四日目の授業があった。私達は圖書館でした。午後は寮舎へ帰ってお洗濯をした。暑いので帽子をかぶってした。川の水は、つめたくてきもちよい。

七月二十八日(土曜日)晴

今日もよいお天気。午前中は、小矢部川の川下の岸へ、薬草(げんのしょうこ)を取りに行った。今日はとても澤山ある。一生懸命取った。寮一ぱい取れた。午後は寮舎へ帰って休養した。暑い。暑い。すっかり夏になったのだ。



もんぺをぬいで、えん側で本を讀んだりした。風が吹いて来てとても涼しい。夕食後しばらく、運動場で運動した。私は、鐵棒をした。久しぶりだ。しばらくしなかつたので、さがあがりも出来なくなっていました。おけいこしよう。

七月二十九日(日曜日)晴

朝會がすんでから、運動場がわいておたので、全校体操をした。五六年女子は、しよになつて、しゅうる、球をした。久しぶりの運動だ。元氣よくやった。

午後は寮舎へ帰った。おえん側で、日記を書いたり、本を讀んだりした。夜、寮舎へ帰って、お経をお聞きした。そのあとで、四思のお話があった。

七月三十日(月曜日)晴



今日は、休養だ。とてもよいお天気だ。暑い。吉波さんの、お庭の、南瓜も、葉がぐつたりとしてゐる。女學校にゐて、日記を書いたり、トランプをしたりした。午後は、いすを三つ並べて、晝寝をした。夕食までぐつすりと寝てしまった。

七月三十一日(火曜日)晴

第一日の授業があった。國語の時は、われは海の子。に入った。私は、海に行きたいなあと、思った。算数の時間は、考査があった。私は、九〇点だった。午後、じやが、もの整理をしてから、久しぶりに髪洗ひをした。とても氣持よくなつてさつぱ

リした。  
今日で七月は終りだ。今月<sup>も</sup>しつかり暮せたか  
し。

八月一日 水曜日 晴

もう八月だ。ずいぶん早いなあ。これから、ま  
ます暑くなるのだ。

今日は、第二日目の授業が  
あった。

午後は、寮舎へ歸って、

お洗濯をした。小矢部

川では、どこかの生徒が泳

いでゐるらしく、楽しげな聲

が聞えて来る。すん<sup>（ヤウ）</sup>で

から、みんなでみに行つた。澤

山泳いでゐる。阿部先生や喜門先生も泳い

でいらしゃる。とてもおもしろさうだ。

私と相良さんは、海水着を持ってゐるので、

泳いでもよいとおっしゃつたので、すぐ、海水着に

着返へて、一しよに川へ入つた。うれしくて、

胸がをどる。こちらへ来て、始めて水に入るの

だ。ぼちやぼちや泳いだ。もぐりここの競走も



八月二日 木曜日 晴

朝食がすんでから、きうりを。山下寮から、炊

事場へ運んだ。少し重い。

阿回も運んだ。

午後は、女学校にゐて、書

寝をしたリ、本を讀んだり

した。風が入つて来て、とて

も涼しい。

八月三日 金曜日 晴

空は青空、雲一つないよ。お天気がつづいて

うれしい。木立では、油ぜみがじいじいになりて

る。とても暑い。

朝會後、すぐ炊事場へ行つて、おひも洗ひ

をした。お晝に使ふのだ。間に合ふやうに

一生懸命洗つた。

午後は、全買水泳があつた。これから、晴水

泳は毎日水泳があるのだ。うれしい。一昨日

より泳げるやうになつた。ほかの人達も澤山

泳ぎに来てゐるのでとても満<sup>ゆ</sup>んだ。

八月四日 土曜日 晴

今日から、十日までは、夏期特別鍛練週間

だ。その間、一生懸命鍛練しよう。

今日は、午前中水泳だつた。早いので、水はと

てもすんでゐて、つめた。準備体操のあと



ひら泳ぎの形を教へて頂いた。ひら泳ぎはなかなかむづかしい。男子の向かきさんなどは、とてもお上手だ。私も一生懸命おけいこして出来るやうにしようと思つた。



午後には、午すおだった。# 学校にゐて、いすを並べて寝た。ちよつと、かたを見ると、もう、肩のへんがやけてゐた。十日ごろには、どんなになるかしら。真黒になつてしまふかもしれないわ。

八月五日 日曜日 晴

四時起床。早起行軍で、安居寺の途中の(半)橋まで行くのだ。早起はとても気が持たない。小矢部川で顔を洗つた。五時に出発。朝の畠道を元気に軍歌をうたつて行った。思つたよりも橋は近かつた。とてもリッパな橋だ。歸るころは、もうお日様が高くなつてゐた。午後は、水泳だった。曇つてゐて、少し寒い。少し泳いですぐ上つた。今日は何だがつまらなかつた。

八月六日(月曜日)晴

午前中、うれしい水泳。今日の場所は、福光橋の方だ。そこは、深い所がなく、私達に取つては、もつてこいの場所だ。高田先生は、悪い所を注意して頂きながら、一生懸命おけいこした。小さなめだかなども澤山ゐる。みんな一人づつ泳いで見て頂いた。堺井さんなども、すおお上手になつた。私も、早く泳げるやうになつた。



高田先生が「七理さんは、ずみ分よくなりましたよ」とおっしゃつたので、とてもうれしかつた。ますます一生懸命泳ぐ。今度は、ひら泳ぎを練習しよう。今日の水泳は、とてもおもしろかつた。

午後は、午睡だった。ぐっすり寝た。

八月七日 火曜日 晴

午前中は、水泳が取りやめになつて、山下寮四五年の引越作業があつた。今度、西尾寮へ行くのだ。私達は荷物を運ぶ、お手傳ひをした。

午後には女學校にゐた。  
二時ごろ校長先生がいらした。私達の元氣な様子を見にいらしたのだ。おやつには、じゃがいものふかしたのと紅茶があつた。とてもおいしかった。

五時ごろから、講堂で校長先生のお話があつた。學校もまだ無事ださうでうかし。

八月八日 水曜日 晴

今日は、大詔奉戴日だ。朝食がすんでから神社境内へ行つて、奉讀式を行つた。

午前、山下寮の大掃除。私達は、玄関を拭いた。始めに、木くづや、かんなくつなどをむしるぞ。炊事場へ運んだ。それから、はきにくい。きらいにはいた。

午後、寮舎へ歸つて、お洗濯をした。すんでから、今月は、白衣の兵隊さんへ、慰問文を書いた。心をこめて書いた。

夕方、つツサへ、薬草(げん)のしょうこを取りに行った。手一にギリくらみ取つて来た。夜、お星様がとてもきれいだ。



八月九日 水曜日 晴  
午前、山下寮引越作業。二三年が本田寮に移るのだ。私達は、そのお手傳ひ。荷物を本田寮へ運んだ。  
これから、本部は、本田寮になった。

午後は、山下寮の大掃除。新館の部屋を掃除した。とてもすごい。ごみが一ぱいだ。天井のすすを取つたり、たなをふいたりした。部屋は、いくら掃いても、ごみが出て来る。  
高田先生と一しよに、一生懸命きれいにした。みんな一生懸命したので、とてもきれいな



おやつに、いりごめがあつた。働いたあとなので、とてもおいしかった。

八月十日 金曜日 晴

とてもよいお天気だ。お庭の南爪も、ずいぶん大きくなつてゐる。  
暑いなあ。川で泳ぎたい。  
今日は、寮舎で、荷物を全分出して来て、大整理をした。體のまはりには、荷物だらけだ。

いる物といふなり物を分けた。  
順番にとこやさんにも行つた。長かつたも  
が短くなつたのでとてもさつぱりした。

午後は、荷物の整理をすまして、物置に  
きちんといれた。

お玄關もきれいに掃いた。

何もかもきちんとしたので、

気がせいせいとした。

いよいよ、ソビエツトも、我軍

に對し、戰鬥を、昨日から

開始したのだ。もう、満洲と

ソ聯との國境線では、日滿の

兵隊さんが戰つていっつしや

るのださうだ。

「こしやくなやつ。今に見ろ。きつとやつつけてし

ま心ぞ。強い決意が心の底からわき上る。

私は、一さう心を引きしめて、疎開生活をしつ

か(今までよりも)りして行かう。と思つた。

八月十一日 土曜日 晴

午前中は、作業。私達は、じゃが芋の整理

をした。くさつたのもをより出した。下の方は、ず

み分くさつてゐる。少しやうかいのなどは、バケツ

で、炊事場へ運んだ。

午後は、久し振りに水泳だった。体操をし



てから入った。今日は、少し水がつめた。でも一

べん泳ぐと、暖かくなつた。私は行つたり来た

りして、泳いだ。ひら泳ぎのおけいこをするた

め、川を上げて浮かうとした。が、だめだ。ぶく

ぶく沈んでしまふ。まだだめなのかしら。一生

懸命おけいこしやう。

しばらく泳いでから、中洲へ上つて休んだ。お

日様が背中をじりじり照りつける。最後に

みんな並んで泳いで上つた。

とても楽しかつた。お八分に、ふかしいもがあ

つた。おなかですいてゐたのでとてもおいしかつた。

八月十二日 日曜日 晴

第一日の授業があつた。一時間目國語の時

間は、書取があつた。二時間目に返して下さ

つた。私は、八十八点だつた。しつかり字の練習

をして、いつされても百点が取れるやうにしやう

と思つた。あとは、自習。日記を書いた

りした。

午後は、女學校にて、晝寝を

したり、江田島の本を讀んだり

した。

夜、高田先生は、御氣分が悪いので、

早くお寢になつた。お熱があるらしい。手

拭を水でぬらして来て、さし上げたりした。トラ





ンプなどをしてみても何だかさびしい。ほんた  
うに御病氣かしら？とても心配だ。  
夜、お風呂に入ってからねた。

八月十三日 月曜日 晴

良いお天気。高田先生は、寝ていらっしや  
るので、静かに洗面をしたりして、私達だ  
けで、女學校に行つた。

朝食がすんでからすぐ、寮舎に歸つて、お  
洗濯をした。スリッパなどを洗つておくと、  
おとくなつてしまつた。終つてから、すぐ、學校  
へ授業しに行つた。

三時間目

ごろ、高



田先生が、  
起きてら  
した。お  
なほりに  
なつたら  
しい。よか  
午後には水泳。私はお復  
をこわしてしまつたので見學した。木のかけ  
に腰を降ろして、本をよんでみた。川からは  
きやあ、樂しうな聲が聞えて来る。  
お八つは、ソリ米。女學校でみんな一しよにい  
ただいた。  
今日からはおぼんだ。

八月十四日 火曜日 晴  
ふと目がさめる。もう朝だ。庭ではせみが  
鳴いてゐる。

今日は、第三日目の授業だつた。でも、先生が  
たがいらつしやらないので、みんな自習だつた。  
私は、日記を書いたり、書取練習などをし  
た。

午後には、女學校にゐて、晝寝をした。

夕食後、じゃが  
もが来たので、そ  
の整理をした。

玄關前においもをたわ  
らからあけて、くさつたお  
いもをより出した。ずゐ  
ぐくさつてゐる。一生懸命した。  
おいおいもは、二号室へ運んだ。  
タヤけで山がそめら水とてもき水だった。

八月十五日 水曜日 晴

今日はおぼんのおちゅう日だ。ああお家では  
お墓まゐりをしたんだなあ。

朝會がすんでから、國民學校で体重を計  
つた。私は、二十四キロだつた。そのあと、音楽  
のしけんがあつた。始め和音、次に一人づつ  
日本海海戦の歌をうたつた。



午後は女學校で、自習をした。でも、何だか心が不安でしかたがなかった。

夕食はおはぎに、じゃがいものふかした御ち走だった。おはぎはきなこ。とてもおいしかった。

寮舎一歸ると、お兄様が、「ああ残念だなあ、つひに無條件降伏か」とおっしゃったのでみなび

つくりした。思ひもよらぬ事。なぜ、この日本の國が、米英に對して降伏したのだらう。どうし

ても信じられない。お兄様のお話によると、原子爆彈が原因なのださうだ。その原子爆彈

と、いふのは、針のめじぐらゐで、それは、ものすごく偉大な力をもつてゐるのだ。ああなんとつて

も、しゃくだ。私達は、何も知らずに、おはぎをおいしくたべてゐたのだ。

この發表は、今日の十二時にあつたさうだ。夜床に入つたが、なかなかねむれなかつた。

八月十六日 木曜日 晴

朝食がすんでから、情報があつた。大東亞戦争終結のことだ。疎開學園

どうとう、日本は、原子爆彈のために無條件降伏をするに至つたのだ。ほんたうに残念だ。

昨日、天皇陛下は、ラジオを通して、一億國民に、

「ちんの身は、どうなつてもよいから、こゝ以上臣民

を苦しめたくはない」と仰せられたのだ。私は、胸がはりさけるやうだった。しぜん、目に涙がたま

つて、泣いてしまつた。みんな泣いた。情報をな

さつてらつしやる宮地先生も泣いていらした。私は心に固く、きつと今に見返してやるぞと

ちかつた。そのあとは、女學校で、「大東亞戦争終結の大詔を拜して」といふ題で、今日の決心を書いた。

いくら考へても、戦争が終つたとは思はない。

八月十七日 金曜日 晴

今日は休養だ。午前中は女學校で自習をした。國語の字の練習をしたりした。

午後は、寮舎へ歸つて髪洗ひをした。とてもさっぱりした。

すんでから、國史の考査の練習をした。

夜、お風に入つた。私は一番最後、先生と一しよに入つた。

先生に洗つて頂いてから、今度は、先生のお背中を洗つてさしあげた。手拭で一生懸命こすつた。まるで、お母様の肩を洗つてさし上げてゐるやうな気がした。ゆつく

(かみ洗)



りと、星を見ながら入った。とても気持ちがよかつた。

八月十八日 土曜日 晴

第一日の授業があった。國史の時間は、日本のなり行きのお話があった。それから、考査が出た。本を読んで、米英の東亞侵略の方法を書き、二番番は、日本再建設大方策で、二十一日までに出すのだ。

午後は、國史の考査を女學校でした。

八月十九日 日曜日 晴

一時間目は自習なので、寮舎へ歸ってお洗濯をした。今日はとても澤山ある。きれいに洗った。終つてから、すぐ女學校へ行つて

授業をした。

午後は、女學校で國史の考査をした。

夜、又お風呂に入れて頂いた。高

田先生が洗つて下さつた。

とても(体を)気持ちがよかつた。えん側で涼

んでから寝た。



八月二十日 月曜日 晴  
普通の授業。午前中は、寮舎へ歸つてお洗濯をした。今日も澤山ある。暑いのので帽子をかぶつてした。

久しぶりにおはがきが来た。お母様と百合子お姉様からだ。どうしたのう。と心配してみたところなので、もううれしかった。なんべんも見た。

午後は女學校で自習をした。トランプをしたりして遊んだ。

八月二十一日 火曜日 晴

今日は、私達が、久米川へ疎開してから一周年記念日だ。さうさう、朝大荷物を持って、お母様と一しょに、高田馬場へ行つたのだつたなあ。

第四日目の授業だった。でも國史のほかは全部自習だった。

午後は、女學校にいて、本を読んだりした。

夕食は、疎開一周年記念日のお祝に御ち走があつた。眞白な御飯。なすのし

んやき。きうり。しゃげかん。じやがいもだ。とてもおいしかった。

これからも又しつかりくらしで行かう。



八月二十二日 木曜日 晴

第四日目の授業。朝會前、女學校校門の  
ごみくづや草を、きり口に取った。

綴方は、この間の、フブキを書き上げた。お習  
字の時間は、「樂放送」を書いて先生にお出  
しした。心をおちつけてから書いた。

夕方、並木先生が歸っていらした。

八月二十三日 木曜日 曇  
朝からどんより曇つてゐる。何だか心持まで暗く  
なりさうな空だ。

今日は休養だ。女學校にゐて、日  
記を書いた。ドリランブをした。し  
ばらくすると、雨が降り出した。久しぶりに雨だ  
少しは降った方がよいかもしれない。

午後になると、とてもひびく、ざあざあ降り出し  
た。廊下などは雨もりで大へんだ。

寮舎へ歸るころは小降りになった。

八月二十四日 金曜日 晴

第一日目の授業。三時間目は、  
配給所へお野菜を取りに行つた。  
た。おなすとラリだ。大鳥さんと  
一しよに運んだ。一ぺんでは運び  
きれないので、二へん運んだ。午後、久しぶりに



体操をした。かけ足や、鐵棒をした。鐵棒は、  
けんすゐなどだった。私は、一回も出来な  
い。もつともつとしっかり練習しようと思つた。

夕食がすんで、して出来るやうに  
からしばらく、鐵棒でけん  
するの、おけいこをした。

八月二十五日 土曜日 晴

第二日目の授業だ。一時間  
目の理科の時間は、原子  
爆彈のお話があつた。

晝食がすんでから、運  
動場に出て、鐵棒でけん  
すゐのおけいこをした。少し  
うでがまがるやうになつた。少  
こしやう。夕方、大鳥さんのお母様とお兄様が

面會にいらつした。

八月二十六日 日曜日 晴

午前中は授業。理科の  
時間は、肺結核のところを  
お習ひした。肺病は、何が

原因か、どうすればよいか、いろいろなことを先生  
が話して下さつた。肺病のもと、結核菌が私たち  
のまはりに一ぱいゐるのだ。私は、始めて肺病の



おそろしさがわかった。たいていは、死んでしまふのだ。肺病にならないうやうにしっかりと身体を丈夫にしやう。と思つた。

午後は寮舎へ歸つてかみ洗ひをした。とてもさっぱりして氣持がよかつた。

夜、お風呂に入った。先生がごしごし洗つて下さつた。出てから、ミッカロールをつけた。田島さんにつけてこをした。顔にもつけた。

まだ時間があつたので  
つみへ行って涼んだ。空にはお星さまがきらきら光つてゐる。ああこの星を、遠くからお母様も見たいらうしやるかなあ。しばらくすすんでからねた。



八月二十七日 月曜日 晴

朝會前運動場で遊んでゐると、急にものすごい飛行機の爆音がした。そして、校舎の向ふから飛行機が現れて来た。見ると、敵機だ。F6Fだ。アメリカのマークがはっきりと見える。一機又一機。どんどん飛んで来た。すぐぐぐぐと空で飛んでゐる。ていさつに来たのだ。私達をばかにしてゐるのだ。しゃくだ！にぎりこぶしで敵

どうどう敵機がとびやうになつたのだ。  
日本にも

機をたたき落してやりた。私達は、今、じつとがまんして、しっかりと身体をきたへ、五十年後、百年後、今に敵をみかへしてやるのだ。

八月二十八日 火曜日 曇

朝、高田先生がお家へお歸りになつた。何だかさびしい氣がする。

第五日目の授業があつた。二時間目と三時間目は、大東軍戦争の圖を書いた。これは記念に取つておくのだ。いねいに書いた。

午後、お野菜の配給があつたので、配給所へ取りに行つた。おなすと南瓜だつた。歸つて来てからおハフにかんぱんを頂いた。働いたあじなののでとてもおもしろかつた。

八月二十九日 水曜日 晴

今日は休養日だ。起きた時は、曇つて雨が降りさうだつたが

朝會の時は、青空になりよ、お天氣になつた。午前中は寮舎へ歸つてお洗濯をした。とても澤山ある。時間がじゅう分あるのでゆつくり、き

れいに洗つた。午後は、女學校にゐて、日記を書いたり算數をしたりした。すんでから、乙葉さん達と、小倉百



（きつと敵機をにらんだ。）

人一首をした。愛國百人一首は久しぶりだ。お家でヤマタきりだ。少しだけおぼえてゐる。よみふだで、坊主めくりもしたりした。

八月三十日 木曜 晴

第一日目の授業。圖工の時間は寫生のつづきをした。大部繪らしくなつて来た。



五時間目体操の時間は久しぶりにしゅうるい球をした。男女にわかれてした。夕方雨が降り出した。だんくどしやぶりになつて行く。しばらく女學校で雨やどりしてから歸つた。時間はさうおそくないのに曇つてゐるせみかすみ分暗かった。

八月三十一日 金曜 雨

昨日の雨が降りつづいてゐる。早くやまないかなあ。



二日目の授業だった。理科の時間も算数がおく水今日はおぼるので算数をした。午後は月末大掃除。ざあざあ降る雨の中、

(寮舎の)

を、寮舎へ歸つて、荷物の整とんをした。すんでから算数の宿題をした。46頁の計算練習だ。一生懸命した。

もう今日で八月は終りだ。今月もしつかりくらせたかな。

九月一日 土曜日 曇

もう九月だ。ほんたうに早い。二つちへ来てから四五六七八と五箇月もたつのだ。

今日からは始業式がなくとも、第二学期が始つた。新しい、明るい心持で、しつかりと生活して行かう。



それに今日は関東大震災記念日だ。ちやうど大正十二年の今日の晝に大地震があつたのだ。朝會の時、齋藤先生から震災のお話があつた。

午後、寮舎へ机を運んだ。とてもよい作りたての机だ。うれしいな。夜歸つて見ると、お姉様から、お便りが二通来てみた。とてもうれしくて何ぶんも見た。さつそく、新しいお机でお返事を書いた。

とても書きやすい。今日は、高田先生がお歸りになるはずだ。でも八時になつてもお歸りにならな。

どうしたのかな。汽車にお乗水になれなかつたのかな。

乗水になれなかつたのかな。



九月二日 日曜日 曇

どんよりと曇ってゐる。少し寒いので、長袖を着て行った。そろそろ秋に入つて来たのだ。

今日は、全校鍛練。白い下着になつてした。始め体操。行進のおけいこをしてから、六年女子は阿部先生のお指圖で蹴壘球をした。私達は一部、六年とした。攻撃でける時は、「エイ」と掛聲をかけた。一生懸命けた。

今日の蹴壘球はとてもおもしろかつた。今度の全校鍛練の時には、蹴壘球大會があるのだ。しっかり練習しよう。



夕食の時、高田先生が歸つてらした。にぎやかになつたやうでとてもうれしかった。  
夜、お風呂に入った。さつそく先生がみんなの体を洗つて下さつた。まるでお母様のやうだ。こちらでは先生が母様のなのだ。  
床に入ると虫が庭でないてゐた。

九月三日 月曜日 雨のち曇

朝、小雨が降つてゐたので、傘をさして行った。朝食の時は、もうやんでゐた。一時間目、圖工の時は

寫生をしあげた。遠くと近くのかげをつけた。

午後、たいくつなので、新聞を見た。すると、マツカ一サアがもう、厚木飛行場へ着陸したことが出てゐた。寫真も出てゐる。(ほんたうにしゃくだ。夜、床に入ると、かや(黒)メガネをかけてゐるのだ。の所にすねつちよが来て、ないてゐた。外でこほろぎもないてゐる。

秋だ、とないてゐるやうだつた。

九月四日 火曜日 雨

朝から雨が降つてゐる。

今日は、五日目の授業があつた。綴方の時間は、運動場の方へ出て、俳句・詩和歌などを作って書いた。なかなかよい句が見つからない。三つ四つ出来た。

四時間目はお習字。「皇國ノ興廢コノ一戰ニ在リ」といふのを今日は習した。

午後になると、とても(練)ひびく降り出し、風も出て来た。空は、眞黒な雲でおほはれてゐる。たい風になつたらだ。せつかくの稲がたほれてしまふ。どうかなりま(大)んせんやうに。(曇)ち

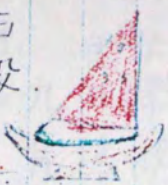
九月五日 水曜日 晴

朝、五時半ごろ起きて、そばの泉へ、洗面道具を持



つて、高田先生に、つれて行って頂いた。草はつ  
ゆでぬいてみる。泉へ行くと見ると、よその方も、洗  
面しにいらしてゐた。清水でとてもきれいだ。口を  
すすいで顔を洗った。何とも言へないよ、気持ちだ。  
いなあ。時々早起して、ここへ来たかと思つた。  
今日は、安居寺一行軍だ。(お辨當と、水筒を  
持って行った。)

朝は、曇つてゐたが、しばらく歩いて行くうちに  
青空が出てきて、よいお天気になった。両側の田  
んぼは、(みな)穂が出て、たれてゐる。風がなけり  
見渡すかぎり(稲)は豊年だ。景色(た)を見なが  
ら歩いて行つた。



安居寺は、あ  
んがの近かつ  
た。坂をのぼり  
を上つて行くこ  
石段



山門に、三王様があつた。  
お寺の両側を拜禮してか  
ら、まだ早いのぞ、宮地先生が安居  
寺についてお話しして下さつた。すみ分有名なお寺だ  
すんでから、久しぶりに青空の下でお辨當をいただ  
いた。何ともいへないほどおいしかった。  
歸りに、農業會からお野菜を、持つかへつた。  
久しぶりの行軍、とても楽しかつた。お八つに、西

爪と、枝豆があつた。とてもおいしかった。  
夜、寮へ歸つてみると、お母様から、お便りが來  
てゐた。とてもうれしかった。中には、小包を送りまし  
たと書いてあつた。早く來ないかなあ。

九月六日 木曜日 晴

朝、いつもより早く起  
きて、お洗濯をし

た。朝から、とても  
よいお天気だ。う  
れしい。

川のふち ち一行  
つて、洗 った。

とてもき  
ちが、い

今日は、休  
養日だ。

午後から、私と  
田島さんと吉田さ

んは、高田先生と  
森先生と一しょに、

立野ヶ原へ、秋の七草を取  
りに行つた。

立野ヶ原へついで、あたりを見たが、ない。近くにはな  
い。よそのをば様が、花を持っていらしたりで  
お聞きすると、奥の方に、(ききょう)があるさうなので、ど





つんどん歩いて行った。しばらく行くと、かけがあったので、あるかもしれないわなど行って上ってみた。あつたわよ。と高田先生の聲。みんなそこへとんで行った。みると、一本ききやうが咲いてゐた。とてもきれいだ。そこから、お宮を通り、坂をのぼって行った。するとどうでせう、みんな「わああ」とかん聲をあけました。おみなへしが一面咲いてゐるのだ。もううれしくて、夢中になつて取った。おみなへしの間にも、まききやうが咲いてゐる。今度はまききやうを取った。黄色の澤山おみなへし、紫のまききやう、そのまききやうのこと、手一ぱり取った。歸りははぎ、すすきなどを取つた。みんな喜んでかへつた。

井學校へかへつて、すぐお水につけた。

今日は、楽しい休養だった。

九月七日 土曜日 曇

朝起きて見ると、雨が降つてゐた。

今日から、新時間割だ。今日は、第一日目の授業をした。

寺圖工の時間は、前の寫生に、おてんのついておた人は、裏に別の所を寫生した。私は、紙のはしに、秀と書いてあつた。それに、阿部先生が、「こいつはうまいぞ。なかなかよろしい」とおっしゃつたので、とてもうれしかった。今度の寫生も、しつかり書かうと思つた。午



後は、ずうつと井學校にゐた。日記を書いていると、笠井さんが、「七理、先生がよんでらっしゃるよ。いつたので何かと思つて、行つてみると、高田先生が小包をほじいていらつしやるどころだった。うれしくて胸をさぶらうせながら、先生と一しよにあけた。

大事に寮舎へ歸つてから、ゆつくり中を見た。下駄毛糸、くつなど、持つて、いろいろな物が入つてゐた。とてもうれしくて、しょうがなかつた。

九月八日 土曜日 曇

今日はいくもつてゐる。さつそく、昨日来た下駄をはいて行つた。軽くて歩きやすい。

第二日目の授業があつた。理科の時間は、脈についておならひした。自分の脈のかずを数へたりした。自習の時、お母様へお便りを書いた。

午後は、明日、蹴壘球大會があるので、蹴壘球のおけいこをした。選手もきめた。私は、一組だった。一生懸命おけいこした。

夜、寮舎へ歸つて、布とほぼぎを頂いた。がはい、ほぼぎだ。

九月九日 日曜日 雨

今日は日曜日、全校鍛錬日だ。朝からしとしと雨が降つてゐる。

少し早く起き、先生と一しよに、じゃがいもを洗つたり、風呂をけい、水を入れたりした。



ほんとなら。今日は、運動場で蹴壘球大會があるのだが、雨が降ってゐるので、体練教室で体練を行ふことになつた。

始め、体操や、かけ足をしてから、コートを作つて、

一投ひ球をした。私達一組は、五男としあひ

したが負けてしまつた。もつと、一生懸命

命しなくてはだめだと思つた。

午後は、寮舎へ歸つてかみ洗をした。

それから昨日のいたたいたほ

ぼづきをもんで遊んだ。つやつや

して赤ちゃんみたいでとてもか

はいい。

夜、寮舎へ歸る時、空に紅

がかかつてゐた。七色がだんだ

んは、つきり見えて来る。

とても、美しい。みんな、

てしまつた。

九月 十日 月曜日曇

第三日目 授業があつた。でも二時間は

今日(は)自習だつたので、地理の宿題をし

たりした。

晝食の時、國民學校の方々から、南瓜を頂いた。

とても澤山だ。これは、みな一人づつお家から持ち

よつてらしたのださうだ。ほんたうにありがた

い。



だと思つた。

お八つに、さつそく、南瓜をふかしていただいた。

甘くて、とても、おいしい。よく味つて頂いた。すんで

から、ざる、バケツを持って、知源寺にお野菜を

取りに行つた。おなすやきゅうりなどだ。

た。

九月十一日 火曜日 雨

朝起きてみると、もう高田先生は、

いっしょにやらなかつた。學校の用事で、

朝早くお家へお歸りになつたのだ。

今日も、へんな空。雨が降つてゐる。このごろは、

雨かくもりだ。早くいいお天気にならないかなあ。

午前は授業。午後は、國語や算數のおさらい

をした。とても寒かつた。

九月十二日 水曜日 晴

久しぶりによいお天気だ。朝會がすんでから、波

昨日の雨はからりと晴れて今日(は)田製作所へ、下

駄箱と、棚を取りに行つた。いよいよ出来たのだ。

うれしいな。みんなで寮舎へ運んだ。棚は、組立

るのだ。

十時から、國民學校のお裁縫室で主事先生

のお話があつた。昨日お歸りになつたのださうだ。

東京の方は、とても大へんらしい。

午後、寮舎へ歸つてみると、とてもよい棚が出



来上つてゐた。下駄箱もリッぱだ、すぐに荷物を、  
棚へのせて、きちんと整理した。とてもきれいななつ  
た。うれしくて、たまらなかつた。

九月十三日 木曜日 曇  
今日もへんなお天気だ。午  
前中は六日目の授業を

した。  
國語の時間に、考査の  
答あんに返して下さった。

私は、九十七点だった。一し  
生懸命おけいこして、百點  
を取らうと思つた。

午後(配給物を、取りに (新  
行つた。バケツを持って、何かし  
らと思つたら、白ごまだつた。

夕食前、福光驛へ英  
靈をおむかへに行つた。

九月十四日 金曜日 曇時々雨

今日は、私達五六年は、ここから二里半の砂子谷  
の國民學校へ、南瓜を頂きに行くのだ。

朝から、とても曇つてゐる。朝食後、すぐお辨當  
をつめて、八時半に、出發した。すぐ傘をかぶり、  
雨がひどく降つて来さうなので、傘も持つて行つた。  
みんな元氣よく歩いて行つた。桑山の登山を通



リ、トニネルを通ると、雨がぼつぽつ降り出した。  
そこから、くねくねと道が曲つてゐて、右側は、  
山はだが見えた。すすきも一ぱい生えてゐる。五六  
年だけなので、じんじん歩いて行つた。途中二三回  
休けいして、やつと砂子谷國民學校についた。山の  
中で、とても静かなよい所だ。

体操教室でしばらく休んでからお式をした。(私は  
さんたちがとてもしつかりしていらつせるのでびつくりし  
た。すんでから、お机をおかりして、お辨當をいただけ  
た。學校で、きうりのおみそ汁を出して下さつた。あつ  
くてとてもおいしかつた。だいが休んでから、いただけ  
いた南瓜を、持ち、先生方にお

禮をいって、砂子谷國民  
學校を、出た。

歸りは、少し  
て来たが元  
氣を出して、  
山を下つた。



とても、  
（の）日記は作文と違ひ、  
に書けることを、  
究、  
りありか、  
と、  
のふくまひ、  
あり、

（の）日記は作文と違ひ、  
に書けることを、  
究、  
りありか、  
と、  
のふくまひ、  
あり、

九月十五日 土曜日 曇

今日は、八幡様のお祭りだ。道の両側には、ずうりと、ちようちんが並んでゐる。店も出てゐる。朝から、「トントコトントコ」たいこの音が聞える。子供達は、みなきれいな着物を着て、歩いて、ほんたうににぎやかだ。

午前中は、散髪をした。その間々に、先生の所、悪い所などを注意して頂いた。これから、今日（行って）注意していただいたところを、直して、リッパな、おてほ人になるよ、子にならう。一日一日、しっかり暮さう。散髪もしたし、悪いところも、直して、ただ、頭と心がさっぱりして、明るくなったやうだ。

午後、健康診だんがあった。私はAだ。二部六年は二人だけ、Bで、ほかみなAだった。リッパな夕食は、お祭りでごち走だった。明るく、餅米のお赤飯。とてもおいしか、す直なよ、子



九月十六日 日曜日 曇時々晴

朝會後、女学校の、大掃除をした。おかりして、わたしお教室をお返りするのだ。私達は、玄關前のところを、きれいに掃除した。

十時から、神社境内で、招魂祭があるので、参列した。心が、静まるやうな気がした。晝食からは、國民学校のお裁縫室をおかりして

お食事するのだ。畳の上ですわつて、ただ、く、家のやうな感じがする。

午後、小矢部川のつつみの石にすわつて、日記を書いたり、遊んだりした。

それから、高田先生に、習字の下じきや、三角定木などを、買って、いただいた。

母様に、買って、くれやうで、とてもうれしかった。

九月十七日 月曜日 雨だ。ざあざあ降つてゐる。早起洗濯も、だめになつてしまつた。つまらない。今日は、休養日だ。午前中、圖書館の下をおかりして、日記を書いたり、圖書館の本を見たりした。とても静かだ。ただ、雨の音だけ聞える。



午後、圖書館の二階にゐて、自習をした。たいくつなので、炊事場の、ながしで、小刀をといたりした。といてゐると、先生が、お手紙を下さつた。お姉様からだ。すぐにお返事を書いた。



夜中、すく風が吹き出した。

九月十八日 火曜日 颯風雨

昨晚からとてもすごい風だ。起きてみると、お庭の梅の木が枝が折れてゐる。颯風が来なくてよいと思つてゐたが、とうとうやつて来たのだ。

今日は第一目の授業だった。六年は図書館の二階でした。

戸がたたくひび、木が左右にゆれて、びゅう／＼なつてゐる。家まで、飛ばされさうなくうゐだ。あまりものすごくて、何だかこはいやうな気がした。

しばらくすると、風だけで澤山なのに雨まで降り出した。颯風雨だ。

風の音。雨の音で、よく授業が出来なかつた。

午後は、おだやかに、夕方、あんな大風があつたとは思はれないほど静かになつた。ああよかった。

九月十九日 水曜日 晴

昨日の颯風は、どこへ行つたのやら、今日は久しぶりによいお天気だ。早穂も刈り取つて道端に干してある。

図書館の二階で授業をした。

四時間目は、自習なので寮

舎へ歸つてお洗濯をした。

雨でずう／＼と出来なかつた。

たので澤山たまってゐる。川のかち

へ行つてした。後からは、お日様が、

おだやかな



とても気持ちがいい。きれいに洗つた。

午後は、図書館の二階にゐて、久しぶりにお習字をした。「中秋の明月」をおけいこした。先生に見て頂きながら、一生懸命練習した。(注意して)

九月二十日 木曜日 晴

起きなさい。高田先生のお

聲。時計はまだ六時十五分前。さ

うさう、朝、お洗濯をするのだったと思つて床を

あげた。洗面器を持って外へ出た。空は、秋空。青

く澄みきり、お日様は、山の上でにこにこ笑つてゐる。と

てもよいお天気だ。とても気持ちがよい。川のかちに並

んで洗つた。

お辨當を持ち、(さ)小な袋を持って、安居寺方面へ行つ

た。町を出ると、雨側、ずう／＼と田んぼだ。お米がみの

つて、穂がたれてゐる。ばらばらになつて、いなごを取

つた。ぴよん／＼はねる。みんな夢中になつ

て取つた。(私)いなご取りは始めてだ。とて

もおもしろい。思つたよりも取れ

た。お辨當は、橋の下の中洲でい

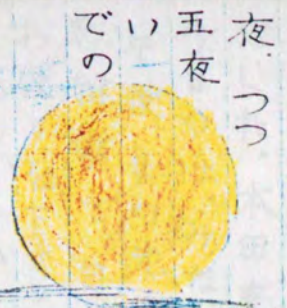
た。とてもおいしかった。袋の中では、出たくて

ばたばたあばれてゐる。

歸つてから、寮舎でやすんだ。私は、いなご取り

の袋を作つた。





夜、つづ  
五夜  
だ、まんまるいとてもき水  
な、お月様だった。お家  
お月見を思ひ出した。  
明月や、雲の間に  
ぽっかりと

九月二十一日 金曜日 晴  
今日もよいお天気だ。午前中は、宮地  
先生につれられて、東太美の農業會にお  
野菜を取りに行った。よく晴れてみるので、田で  
は、あちこち、稲刈り取らうてゐる。  
お野菜は、早稲刈り取らうてゐる。  
て、歸った。

午後、寮へ歸った。私は、  
はなをを作った。始めて作  
るのだ。なかなかむつかしい。  
やつと、片一ぼ出来た。もう一つ  
は、明日だ。



九月二十 二日 土曜日  
今日は、島 仕事。大根のたねをまくの  
だ。午前中、六年(田んぼをたがやして)は、肥料を運

んだ。をけに入つたのを、二  
人で、竹の棒で、肩にかつ  
いで行つた。生まれて始めだ。  
始めかついだ時は、重し、んが  
取れないので、ふうふうした。何  
回も運んだ。



一日中、こうして、働いていら  
つしゃる人もあるのだ。お  
百姓さんの御苦勞がしみじ  
みとわかつた。  
午後、も作業。うねを、平にして、ていねりに、種をま  
いた。  
そのあと、發表會のおけいこをした。ほととぎすの  
對話だ。一生懸命練習した。

九月二十三日 日曜日 曇雨  
今日はお彼岸のお中日だ。八時から、楽しい發  
表會だ。私は、會の辞だ、先生が書いて下さつたの  
を、そらんじた。開いよいよ始つた。始め齋藤先生  
から、彼岸についてお話があつた。開  
會の辞の時は、何だか胸がど  
きどきした。



私達の番の時は、一生、今日  
懸命した。自分ながら、彼岸のお中日  
よく出来たやうな氣 大東正戦争終つて

がした。本田寮の盆をどりはとてもおかしかった。今日の日はみなおもしろいのばかりだった。

午後、女の先生方は、夜御ち走作りなので、私達は裁縫室で、日記を書いた。書いてみると先生がお便りを下さった。お書いたり母様とお姉様からだ。とてもうれしかった。小包をお送りになったさうでたのしみだ。きなこの

夕食は、おはぎと、南瓜の御ち走。とてもおいしかった。おはぎは高田先生がおにぎりになったのだ。今日かんぱんが三袋づつ配給になった。

九月二十四日・月曜日 曇  
午前中は、授業。図書館の二階をおかりして、理科の時間は、澁分たんぱく質や、どうしてしようがするかといふことなどお習ひした。

午後、寮舎へ歸って髪洗ひをした。とてもさっぱりした。(机でお八つにかんぱんを頂いた。日記を書いたりしながら頂いた。夜、お風呂に入った。とても気持ちがいい。ふとんに入ると、すぐあつくて、わてしまった。



字がきれいで、間違ひのない、あつたに結構な、文も、素直に書かれてる。この気持ちと、能く、よく、行きたい。

九月二十五日・火曜日 晴  
よいお天気だ。午前中授業をした。神社の境内で三脚にすわって授業をした。

二時間目は自習なので、寮舎へ歸ってお洗濯をした。とても澤山ある。石にすわって洗った。お裁縫は、前田寮で、型紙を取った。今度は、作業用前かけを作るのだ。(の時)

夕食、小包を本田寮の持って来て下さった。だいて、寮舎へ持って歸った。うれしくてたまらない。



先生にみて頂いた。下駄が二足も、べ、石、嶮などが入ってゐた。下駄は家の桐で作ったのでとてもかはいい。お母様がまごころこめて作って下さった小包。とてもうれしかった。よのつたこと。

九月二十六日 水曜日 晴  
起きるととても寒い。こちらは、二水からだんだん寒くなるのだ。今からこんな寒いのなら、冬は、一たいどうだらうと思ふ。

でも、今日は、空は、青く澄みわたり、秋晴のとてもよいお天気だ。つひみへ出るととても気持ち



三脚にすわって

今日も神社の境内で授業をした。背中から日が照って暖かい。二三時間目は綴方を書いた。秋の朝といふ題で書いた。

午後は寮舎へ歸った。私はお母様とお姉様にお便りを書いた。先生にお許をえて手紙を書いた。久しぶりに、こちらのやうすをくわしくお知らせした。封筒は千代紙で作り、寫真も二枚同封してお出した。

寒くなったのでおふとんを一枚づつ出した。今夜は暖かいぞ。うれしいな。

九月二十七日 木曜日 曇のち雨

今日は曇りだ。朝食後、齋藤先生からお話があった。疎開は來年の三月三十一日まで續けること。主事先生からお手紙が來たさうだ。八人仲よく田先生といっしょに、三月まで、楽しく暮して行かう。高(一)時間目は國語。境内でした。そのあとは、全部(一)自習なので、寮舎へ歸って、日記を書いたりした。午後寮舎へ歸って、本を讀んだりした。しばらくすると、たいくつになったので、みんなでかたまつて、歸る時の空想をしたりした。私は氣が早い。夕食は、先生がつけて下さった。いつもより何だ

高田



だかおいしく感じた。これからはつけて下さるさうでうれしい。夜雨が降り出した。

九月二十八日 金曜日 晴時々雨

朝(一)雲一つないとてもよいお天気だ。今日は休養(一)起きてみると、昨日の雨はからりとほれて、朝食が終つてから寮舎へ歸つて荷物を整理した。中の荷物を全部出して、私のまはりには全部荷物だ。だんだん寒くなつて來たので、冬物を出し、いらぬ夏の洋服(一)をしまった。よく、日光浴をさせてからしまった。連(一)その間、先生は私の敷布を洗つておて、下さった。ほんたうに有がたい。いつも私達のことをよくして下さるのだ。

美知子も、ほんたうに素直なよい子にならう。

午後荷物をしまつてから、先生の机の横で日記を書いた。

今日から又、あみ物を始めた。私は手袋のつづき、綴方を(一)みんなあんだ。

九月二十九日 土曜日 晴

五時半ごろ目がさめた。よいお天気らしいので、先生にお願ひし、私だけ早く起きて、ウエストなどを洗つた。外に出る青く澄み切つたよいお天気だ。洗つてみると、(一)と、ヤッぱり先生も、残りの人の敷布を洗





ひにいらした。朝から、ほんたうに、大へんだ。  
今日は、図書館で授業。一時間、目國語のほか  
は、全部自習だ。堺井さんでも、ヤ、大島さんの日記  
を見せて頂いた。よい所をまねして、リッパな日記帳  
にしよう。

午後は、寮舎へ歸って、あみ物をした。手袋は、  
もうすぐ出来る。早くも来るといひですわ。  
夕食後、先生に、必要な物を買って頂いた。ほん

たうに、やさしい、いい  
お母様だ。申本さんも  
一部六年も三部六年も、高田先生

は、大すきさ。といひてゐたんだ。  
やさしくて、このお母様をきらひ  
な人があらうか。

私は、今日は、何も買って頂か  
なかつたが、とほほはり、おれ、おれ、  
を下さった。お兄様から、おれ、おれ、  
た。夜、星がきれいだった。



九月三十日 日曜日 晴  
今日もよいお天気。こんなお天気は、こちらでは  
めづらしいのだ。

この間、先生に頂いて作った袋を持ち、田んぼに  
出た。いなご取りだ。  
畠道を、歩きながら取った。よく見ると、おろおろ

稲にしがみついてゐる。「エイ、  
掛聲をかけながら取った。  
おろおろ親子が、かくれてゐる。  
夢中になって取った。袋が  
どんどんふくらんで行く。

袋に、ばんばん取り、喜ん  
で、歸った。こんなに取り水のん  
始めてだ。とてもうれしかった。

午後は、寮舎へ歸った。あみ物をしたりした。手  
袋が出来たので、くつ下をあみ始めた。  
夜、お風呂に入った。先生が、今月の、きたないあか  
をすっかり、はらって下さった。

きれいな心体で来月に入らう。  
十月一日 月曜日 曇モラ  
いよいよ十月だ。こちらへ来てから、半年三月まで  
も半年。ほんたうに早い。(號命も私だ)

今月半分は、私が班長。(組を背おって立つのだ。  
私がしっかりしなければならぬのだ。しっかりと、二  
部六年の中心になつて、リッパなよい組にしよう。私  
は、何でもおくれがちだから早くするやうにつとめよう。

夏帽とは、おわかれして、みんな、そろって冬帽を  
かぶって行った。

午後は、図書館にゐて、本を讀ん  
過した。とても静かだった。



此の一週間、なんといふ事直ぐ、まじりまじりに満ちて来た  
事なう。文も、廊の、書も方も研究して  
態度の、ゆるゆる、命も、班も、之に、たうた、あうり、  
かう、先介、松看、て、よく考へて、お地、に、す、い、して  
り、い、ね、先、生、に、小、言、を、い、は、れ、い、も、り、も、明、か、る、い、ま、ひ、で、

十月二日 火曜日 晴

起きて見ると、とても曇つてゐる。雨が降り出しさうだ。

図書館で、授業をした。大部分、算数だった。自習の時、先生に、日記を見て頂いた。何と、ひひようと書いて下さるかな。楽しみだ。

御飯のおかずには、いなごのつくだにがあつた。この間取つて来たのだ。私の取つて来たのもぬるかしろ。お皿の上のを見ると、何だか、あの目ではらんでゐるやうだ。ごめんなさいね。

午後になると、黒雲などは吹つとんで、青空のとてもよいお天気になつた。寮舎へ歸つた。算数の宿題をすましてから、ほうたい、夏帽、ねまきなどを洗つた。夏帽は、来々まで、さよならだ。きれいに洗つた。

夜、今昔物語の本を讀んで下さつた。とてもよいお話だ。今夜は三つ讀んで下さつた。

急に、風がひびく吹き出した。どうか静まりますように。



十月三日 水曜日 風雨

朝目をさますと、やはり、風は吹いてゐた。しばらくすると、雨まで降り出した。

風がひびいたので、図書館の下の部屋をお借りして授業をした。

裁縫の時間は、布をたつた。時間が少なかつたので、型紙をおくだけで終つてしまつた。早くたつた方がよいので、午後もした。寸法をちがへては大へんだ。先生に教へて頂きながらへらをつけた。切る時は、何だか心配だつた。ポケットやひもも切つた。

すんでから、楽しみにしてゐた、ひひようを見た。ひひようを見るのはうれしく、たまらなう。

これから、素直なよい子で、楽しく暮して行かう。



十月四日 木曜日 雨（こちうに）

今日は、雨だ。主事先生がお歸りになつた。朝會の時、新しい四人の先生の任命式があつた。東京から、主事先生と一

しよにいらしたのだ。どなたもやさしさうな先生だ。午前は、授業。午後は、図書館の二階にゐた。二部六年だけで、すきすきだ。一人一机。ゆうゆうと

してお裁縫をした。作業用前かけの、ひもと、後のところをくけた。ていねいにくた。きれいな目でぬってかはいい前かけを作らう。とお砂糖。夕食はおはぎと、南瓜のいたのがあった。新しい先生がいらしたお祝のごち走だ。きな粉とごまのだった。とてもおいしかった。

それに今日は、高田先生と有賀先生がお入りになって、一週年記念日だ。だから又 おはぎは、そのお祝のごち走になる。

夕食後 主事先生のお話があった。みな耳を傾けて聞いた。

十月五日 金曜日 雨

昨日の雨がまだ降り續いてゐる。ざあざあ降つてゐる。一つの傘を、乙葉さんと一しよにさして行つた。ぬれないやうに仲よく入つて行つた。

六日目の授業。理科の時間は、目のことをお習ひした。なぜ見えるか。なぜ、赤とか、白とか色が見えるかといふことがわかつた。木などが美しく見えるのだから、ほんといふしぎだ。あまり考へると、わからなくなつてしまふ。ほんたうに人の体といふものは、心しぎなものだ。私は、こち



らへ来て、いろいろむづかしいことを、理科で知つた。私の頭では、名前などすぐわすれてしまひさうだ。阿久澤先生は、よくおぼえていらつしやると思つて感心してしまふ。(こまこま)

夕方雨はやんだ。西の山は、夕やけをしてゐる。きつと明日はよいお天気だ。

十月六日 土曜日 晴

今日は、休養日だ。朝起きた時は、曇つてゐたが朝食後は、青空が出て来て、とてもよいお天気になった。

高田先生は、山にあけびなどを取りにいらした。私達は、図書館にゐた。窓を全分開けはなすと、きれいな空気が入つて来た。ぽかぽかと、秋の日がさし込んで来て、とても氣持がよい。家で机に向つて勉強してゐるみたいだ。本を讀んだり、日記を書いたりした。

午後、図書館にゐた。袋にひもをつけたり、ぼんべのつぎをしたりして、すごした。夕食の時、高田先生がしめじたけなどを取つて歸つていらした。

言葉の節約



十月七日 日曜日 曇

今日は、主事先生の御案内で、釜ヶ淵といふところを見に行くのだ。遠足だ。

朝食後、お辨當をつめて、すぐ出発した。東太美・立野ヶ原を通り山に入った。細い道をのぼった。降りたりして行く。さあ、さあ、といふ音が聞えて来た。そこへ行くと、岩と岩との間を、水がどうどろと流れてゐる。岩にぶつかつて真白なしぶきを立てながら、深く、ほんたうにおそろしい。釜ヶ淵を一通り見てから、岩にこし掛けて、楽しくお辨當にした。木の音を聞きながら、おいしく頂いた。

一時に歸途についた。歸つた時は、もう四時だった。すぐ夕食。久しぶりに澤山歩いたせゐか、足がだるい。

お風呂に入つてから、寝た。

十月八日 月曜日 雨

ほんたうならば大詔奉戴日。

今日は雨だ。晴れてうれいなると思ふと雨。

かっぱを着、なほつて来たかさをさして行った。

朝食後、雨の中を、お米運びをした。かっぱを着てるので、雨もへいきのへいだ。



新時間割の一日目の 授業を

午後、寮舎へ歸つた。日記を書いた。本を讀んだりした。

このごろお便りが来なくて心配だ。どうしたのかな。その中にきまぬ言葉は節約をせよと書きなさい、給食大層よく有り、  
*（Red ink note）* 假名の間違ひをなくして結構なり、ますます進歩して行く事、お入りの事、お急ぐは、様に、と、改訂

昨日の雨がまだ降り續いてゐる。早くやまなにかしう、空には雨雲が動かうともしない。

十月九日 火曜日 雨

二時、間目には、國語の考査があった。今日のお裁縫の時間から、みんなそろつてやる事になった。今日は、袖と肩だ。

午後は、圖書館の二階にゐて、袖と肩とをぬつた。肩をぬへば、どうやら、作業用前かけらしくなる。

肩をぬひ終つてから着てみた。とても長い。ひざより下だ。大人になつても着られるかな。こんな、おちびちゃんぢや



だめだ。早く大きくならなくちゃ。よく食べよく運動して、ちびちゃんでなくならう。

その間、先生は、ぬれたもんぺをかはかして下さった。寒くないやう、かぜひかないやうにといったも、心配して下さるのだ。ありがたいなあ。

夕方、小矢部川を見に行くと、昨日からの雨のために、増水し、中洲が全分かくれてしまつて、ただく流じうじうと流れ、まったくものすごい。始めてこんな光景を見た。

明方 十月十日 水曜日 雨

もうしてしまつた。ほんたうにどうした事だらう。心がゆるんでゐたのだ。先生、ごめんなさい。ここでおわびします。

今日も雨だ。小矢部川があふれたら大へんだ。あまり降るので心配になつてしまふ。早くやんでくれないかしら。お米もからなけ水ばならないの。お百姓さん困つてゐる。

一時から、四五六年は、主事先生の特別授業が第(一)あつた。富山縣のことについてだ。午後も、午後は、木の流水の速さを計ることにな

高宮橋から、水を流して、福光橋につく時間を計つて出すのだ。でも、つくのがなく



だめになつてしまつた。何事も、一べんでは、成功しなかつた。根氣強くすることが大切だ。

私は、水の鳥に、高宮橋の柱がぐらぐらになり、一部がへこんで、ひびいたのには、びっくりした。水カは、おそろしいものだ。

十月十一日 木曜日 晴 午後曇

大雨も休んで、今日は、お天気だ。うれしい。一時間目國語の時間に、考査の答あ人を返して下さつた。もっとも、もっとしつかり勉強しよう。あとは、ずうつと自習だつた。

午後は、圖書館にゐた。急にくもり出し、風が吹き出した。ほんたうに、天候がすぐくづれてしまふ。

あみ物をした。くつ下足袋が出来上つた。うれしいな。冬にはくのだ。今度は、いよいよ、セーターだ。一生懸命あまう。

十月十二日 金曜日 曇雨

今日は、釜ヶ淵より一里先の、じゃ谷といふ所へ行軍だ。曇つてゐて、時々雨が降り、又、雲の切れ目から、薄日がさし、變なお天気だ。朝食後、お辨當をつめて、しばらくやうすを見た。



きれいな紅は出たが、いけさうもないので、中止

變(變)

になった。

圖書館で日記を書いたりした。

書食のサイレンがなると、みんなお辨當をぶり下げながら行った。久しぶりに机でのお辨當。とてもうれしかった。學校時代を思ひ出しながら、たべた。



十月十三日 土曜日 雨

朝食後、西町の角のお家から、薪運びをし

た。西尾寮の倉庫へ運んだ。一わだつたが、か

いておたので、重くはない。その後は、圖書館で

日當りのよいところに、椅子を持ち出して、あみ

物をした。靴下カバーをあんだ。



夜は、有賀先生の送別

會があった。あまり突然

なのでびつくりした。約一年間、お裁縫を

久米川に疎開してから、お裁縫を教へて下さったのだ。つまらないなあ。

晩さんには、有賀先生、おわかれに、数々の御ち

走があつた。机の上は、ずらりと、御ち走で一ぱ

いだ。とてもおいしかった。

十月十四日 日曜日 晴

お洗濯するので早く起きた。私は、手がた

めなので、出来ないが、乙葉さんと吉田さんが

洗って下さるとおっしゃったので、洗って頂い

た。

(悪いけれども)

た。ほんたうによいお友達だ。いつかご恩返し

をしよう。

雲一つないとてもよいお天気。今日、蛇谷へ行

く事になった。お辨當をつめてすぐ出發した。

青空の下を、元氣よく歩いて行った。主事先生

が先頭だ。

太美山に入り、影近

さんのお家で休けいした。

そこで、影近

さんのお家

になった。

柿を二つ

づついた。丸ご

と、かじりついた。

一休みしてから、いよいよ山の中に入った。ごんごん

登って行くと、谷が見えて来た。ここが蛇谷だ。



雨が、あざあざ降り出した。いやな雨だ。岩のところにたいきました。

お辨當は、雨があがつてから、蛇谷の橋の附近

で頂いた。とてもおいしかった。

歸りはつかれて来たが、元氣を出してかへった。

誤字の多き後編の、まき足す時は、必ず左側にまきと、

まき方が強ひる完成近々よくなると、たぬもろみし

短くてすち日もあまは、まきりんぱりー

十月十五日 月曜日 晴

今日で班長は終りだ。最後をしつかりとしよう。今まで班長らしくよく暮せたかな？

休養日。朝食後、体重測定をした。二十四キロ前と同じだ。

午前中、順番に床屋さんに行った。とてもさっぱりした。

午後、日記を書いてから、先生に耳のこみを取っていただいた。よく聞えるやうになったやうだ。

十月十六日 火曜日 晴

久しぶりに、めづらしくよいお天気だ。朝食後、久しぶりに、神社境内で、体操をした。元氣よくした。

二部六年はよいぞ。と宮地先生がほめて下さったので、うれしかった。又、久しぶりに「エイ・ヤッオ」と、掛聲をかけた。今日も、すべ島へ向って、大根のまびきをした。まだ、みんな小さくてかはいらしい。でも葉っぱは小さい方がおいしいさうだ。

ザル四はいぐらゐ取れた。

午後は、明日、娛樂會があるので、その猛訓練



をした。私達は、狂言寶の筈だ。

夜は、服さうをつけてした。相良さんや乙葉さんや三橋さん

明日しつかりぬ。お姉様から、お母様もみなお元氣だといふおはがきが来たので、とてもうれしかった。今月になって一べんも来ないので、毎日とても心配してゐたが、やっと安心した。くつ下かばいも出来た。

十月十七日 水曜日 晴 今日、神嘗祭だ。今日も、秋晴れのとてもよいお天気だ。澄み切った青空とても氣持よい。

午前中、娛樂會があつた。私達は、五番目、相良さんの大名、乙葉さんの太郎冠者、三橋さんの悪者、とてもお上手に出来た。何だか、私達のが一番よかつたやうだ。

最後に、長くお休みになつてゐた、主事先生の七歳物語があつた。

終つてから、晝食まで、運動場で、日向ぼっこをした。とても暖かい。

午後、お裁縫室にゐた。



一日中青空でとてもよいお天気だった。つづくといいなあ。

十月十八日 木曜日 曇

今日は、休養日だ。朝食後すぐ寮舎へ歸つて、お洗濯をした。

今日も、田島さんと大島さんが、洗って下さった。つめたたい水の中、心から感謝しよう。

晝食の時、石田先生が、歸つていらつしやう。お裁縫室に入つていらつしやう。時はみんな大聲で、「お歸りなさい」といつた。前と同じくここにこして、とてもお元氣だ。

又、地理も教へて頂ける。お話もしていた。ける。うれしいな。

夕食の時おみやげのいり豆があつた。

十月十九日 金曜日

雨のち曇

お歸り

なさい!!!



朝から雨だ。朝食後、講堂で、赤松校が歸るので、その歡送會があつた。みんなうれしうだ。なかに私達は、みんなと楽しく元氣に冬越した。三月までしっかり頑張るのだ。

夕食前、福光驛まで送りに行った。犬へんな荷

三十分ぐらのおくわて、汽車は来た。

物だ。汽車が出る時、おわかれにさようならと手を振つた。私達も、おつかひ時が来るんだなあ。

みんな、お復をすかして、歸つて来ると、おいしうな、御馳走が、並んで待つてゐた。

電氣をつけすぐ、もくたうをして頂いた。御馳走は、久しぶりのおさつのにたのにおいも御飯、おものくき、おいもづくしだった。とてもおいしう、お復が一ぱいになつてしまつた。

十月二十日 土曜日 晴曇

よいお天気だ。圖書館で第二日目の授業をした。四時間目、音楽の時間には、久しぶりに音楽會をした。私は、鎌倉の歌をうたつた。

晝食後、運動場に出て、遊技「工場」の練習をした。

明日の運動會で、上手に出来るやうに、何回も練習した。

お母様からおはがき、お母様から、うれしくて、何人も見た。さつそくお返事を書いた。

十月二十一日 日曜日 雨

今日は、運動會。朝、起きてみると、雨が降つておた。そ水で取り止めになつた。

午前中授業。全部自習だった。







十時の汽車で、高田先生はお家へお歸りになった。おるすの間、並木先生のおっしやることをよく聞いて、しつかり暮さう。

並木先生に手傳つて頂いて、毛糸を洗った。始めはあつのお湯で洗ひ、だんだんぬるくして行った。

午後、も圖書館・手袋を新たに編み出した。

寮舎へ歸ると、毛糸がはいってゐた。ちぢまつてゐたのものをびて、きれいな毛糸になった。

十月二十六日 金曜日 曇り晴

今日は、いよいよ運動會。朝から曇つてゐても寒い。せつかくの運動會。晴れてくれないかなあ。寒いので、少し、澤山着て行った。

八時半から始つた。寒いので、暖くなるやうに元氣を出してした。

徒競争は、四人づつ。賞品「七種サンダーボール」は、一等が草履・二等が箸だ。一生懸命走つたが、賞品は頂けなかつた。残念無念。

全員リレー。私は赤だつた。

リレーこそは、一等と。私の番は、一生懸命走つた。赤



は、三等だつた。

久しぶりの、あし切りもあつた。(元氣一ぱいしたし)

人数は少なく、少しさびしかったが、とても楽し

い運動會だつた。これも一つの思ひ出だ。

お父様とお母様からお便りが来た。つかれも

吹つとぶ。とてもうれしかった。

十月二十七日 土曜日 晴

少し曇つてゐるが、こちらとしては、まあよいお天気だ。朝起きると、とても、ももが痛い。昨日あし切りをしたせゐだ。

今日は、立野ヶ原へ、お辨當を持って行軍。久しぶりに、向ふで、おみおつけを作つて、青天井の下で、わを作り頂くのだ。うれしいな。

並木先生は、昨日の午後からおかせをおひきになつて、寝ていらつしやるので、私達だけで行つた。早くおなほりになるやう。

六年生は、すゐさんのお手傳

ひ。その内、十人くらゐは、石田先

生と一しよに、近

くの村へ柿を

買出しに行つ

た。

どこの家も柿がすすなり

だ。八九けん目でやつと賣



つてくれた。

十一時ごろ支度も出来たので、たき火をかこんで、圓い輪を作り、青天井の下で、暖かいおみそ汗と一しよに、楽しいお辨當を頂いた。とてもおいしい。高田先生がいらしたらなあと思った。

十月二十八日 日曜日 晴

雲一つない青空。とてもよいお天気だ。うれしい。久しぶりだ。

今日は、休養日。昨日とおととひの疲れをゆつくりとなほさう。

朝食後、すみきの皮むきをした。干すのだ。寒いので日當りのよい所でむいた。

むきをはってから、西尾寮へ運び、二三本づつなわでつなげて、物干場へ干した。冬の食糧だ。

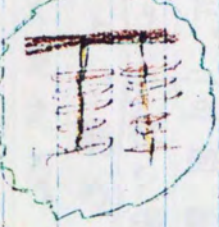
午後は、寮舎へ歸って髪洗ひをした。

夜、お風呂に入った。久しぶりにお湯が多くとても氣持よかつた。

十月二十九日 月曜日 晴

昨日に續いて今日も雲一つないとてもよいお天気だ。こんなよいお天気ほんたうにめづらしい。

このよいお天気むだにならぬやう、お辨當を持って城端へ行軍した。行くのは始めてだ。町を



さうざうしながら歩いた。田では、どこも稲こきをしてゐる。

思ったよりも近く、だいが島道を歩いて行くと、城端の町へ来た。

町のロヤ驛などは、英語で、書いてある。兩側の家、店などを見ながら、町の中を歩いて行き、目的の、別院へ着いた。

とても大きく一目見ただけでも

りっぱなお寺だ。金などもある。うしてなく約金

もある。その廻番さんに、寺の中を案内して頂いた。

何でも、全寮で、百何十間もあるさうだ。何年か一ぺんしかいら

中に、七間、勅使を、お待ちするといふとてもきりいな部屋があるのには、びっくりした。

夕食の時、待ちに待った高田先生が、歸っていらっしやつた。うれしいな。

十月三十日 火曜日 晴

今日も、よいお天気だ。三日も續いて、まったくめづらしい。

午前中、六年生は、大根のまびき、通肥の作業をした。肥運びは、二回目だ。一ぺんしたせぬ



この間ほどより重くない。

前よりも大**部**大きくなつてゐた。今度来る時  
はうでくらゐのが生つてゐるやうに。

午後は、寮舎へ歸つて、お洗濯  
をした。今日も澤山だ。小矢

部川でゆつくりと洗つた。



長あつて日記くはないか  
ママあ、ちまたはさういひを  
り記であつて伝大い、こゝは  
繪り大い、ちまたはさういひを  
もつと、卯辰の研光、をい

十月三十一日 木曜日 曇時々晴

三日も、お天氣が續いたので、今日は、曇りだ。  
桑山へ、登り、秋の礪波平野を見ることになつた。

久しぶりに、桑山へ登山だ。二三回登つたので、どん  
どん登つて行つた。ゆつくりと秋の礪波平野を見た

少し曇つてゐるが、とてもよい眺めだ。ここから見る  
と、まったく福光は、小さく見える。

見はらしのよい所に、腰をおろして、お辨當を頂  
いた。

木などは、葉が、黄色に色づいてゐる。雨が降り、  
さうになつたので、早く歸途についた。

十一月一日 木曜日

もう今日から十一月。早いものだ。こ水から、寒くな  
るから、心を一さう引きしめて、暮して行かう。

朝食後、今月の行事の発表があつた。今月は、反  
省會などがあり、こ水からは、私達も、いろいろな  
事をする事になつた。

午前中は、高田先生と一しょに、東太美の農業  
會へ、野菜を取りに行つた。歩きながら、先生

が、國の事などをいろいろ  
話して下さつた。

午後は、お裁縫室で  
編み物をした。手袋が

出来上つた。うれしい。  
お母様とお姉様が

らお便りが来た。

十一月二日 金曜日 雨

今日は雨降りだ。久しぶりに、授業をした。  
算數の時間は、阿久澤先生がお歸りにな  
つた時見ていらつしやつた進駐軍のやうすのお

話をして下さつた。みな、とてもものんきで、子  
供達とあそんでゐるさうだ。

夜、寮舎へ歸つてみると、お  
母様からお便りが来てゐた。

小包を送つて下さつたさうで  
楽しみだ。早く来ないかなあ。

十一月三日 土曜日

今日は、明治節だ。ふしぎにも、昨晚まで



降つてゐた雨もからりと晴れて、秋の空すみと  
てもよいお天気になった。やっぱり明治節だから  
天の神様もさうなされたのだらう。  
久しぶりに冬の校服を着た。おちついてほんた  
うに校服はいいなあと思つた。

心も晴々。身もキリリ。

九時から拜賀式があつた。明治  
節の式歌はほんたうによい。

持つて来て下さつた。二つだ。このよき日、おめ  
でたい日に小包がくるなんてほんたうにうれしい。  
お母様の真心のこもつた小包。一つは、まんじとだつ  
た。とてもうれしかつた。



夕食はお祝の御馳走。めづらしく、おさしみがあつた。食後、先生方が歌をうたつて下さつた。今日は、主事先生與助先生もお歌ひになつた。始めてだ。教へ歌だつた。今日から起床は六時半。

十一月四日 日曜日 晴曇  
日曜日だ。朝、六時半の汽車で、主事先生を始め  
め先生方は、庄川のだむを見學にいらしたので、  
與助先生と、私達は、おとなしくお留守番を  
した。お食事の時でも、先生方のお机は、與  
助先生お一人だ。静かでも、先生方のお机は、與  
午前中は、先生につれられて、あてもなく、歩

いて行つた。廣瀬村の若宮宮まで行つて歸  
つて来た。

午後は、かはらへ、メリーを深しに行くはずだつ  
たが、雨が降つて来たので中止になつた。みんな  
お裁縫にゐて自習した。

夜、七時ごろ、高田先生など歸つていらした。  
お風呂へ入りながら、そのお話をして頂いた。温  
泉などもあつてとてもよい所ださうだ。私も行  
きたいなあ。

十一月五日 月曜日 晴曇

第三日目の授業。今日からお米運びだ。五人  
は、米運びをして、小さい方三人は、お裁縫室の  
お掃除をした。毎日掃いてゐるので、大分うま  
くなつた。ますくうまくならう。

午後は、圖書館で自習をした。日向に出て  
本を讀んだりした。

十一月六日 火曜日 晴時々曇雨

朝は、とてもいいお天気。いいなあと思つてゐる  
と、どんどん雲が出て、時々、雨が

降り出した。こちらでは、

十一月は、必ず一日に一べん  
雨が降るのださうだ。

お裁縫は、當き水をつけ  
えりぐりに入つた。どんどん進



む。う水しいな。

十一月七日 水曜日 雨時々曇

もうすぐ明治節ぬ。といつてゐた明治節もすぎた。まひ今日はもう七日だ。實に早い。

朝から雨がしとしと降つてゐる。綴方の時

間は「秋の雨」といふ題で書いた。ちようど今日にふさはしい題だ。外を見て、雨をながめながら書いた。

午後は圖書館で自習。私達のところへ高田先生もいらして。一しよにあみ物をなまつた。セーターをおあみになつてゐるがとてもお早い。

夜、停電になつてしまつたので、ロークをともしてした。昔は、こうだつたのだ。ロークは、目がちかちかして、とてもヤリにくい。ヤっぱり電氣はありがた



い。

十一月八日 木曜日 曇雨

午前中は、薪運び。二部六年は、西尾寮に、運んで来た。薪を倉庫に運んだ。今日は、とても寒い。高田先生と一しよに、元氣を出して、一生懸命運んだ。金分、二百、一人十本づつ持つて、歸つた。全分、東運び入れた。しばらく大丈夫だ。すんでから、炊

事場で、いもつるの葉とくきを、取りわけた。澤

山あつたが、一生懸命したので、またたくうちに出来上つた。パラパラと

英靈迎への時、あら水が降つて来た。どうりで、寒いはずだ。それに、今日からはもう立冬だ。医王山には、初雪が降つた。びっくりする。

十一月九日 金曜日 晴

久しぶりに、とてもよいお天気だ。ほんたうは、休養日だが、よいお天気なので、立野ヶ原の方へ冬頂く大根を取りに行くことになつた。第一回目の大根運びだ。

東太美を通り、立野ヶ原をじんじんのぼつて行つて、大根島についた。とても山が近い。

草原で、お辨當を頂いてから、堀りたてのお大根を

一人十本づつ持つて、歸つた。全分、六百本ぐらゐだ。

神明社からは、車に乗せて歸つた。





十一月十三日 火曜日 晴

とてもよいお天気だ。午前中は、あまりよいお天気めづらしいので、各學級ごとにどこかへ行く事になった。高田先生に、つれられて、廣瀬村の方へお散歩した。日が當つてとても暖かい。

歩きながら、寄宿のお話をして下さった。寄宿のお話もおもしろくていい所らしい。歸ってから、お洗濯をした。

晝食前、久しぶりに、なわとびをした。

十一月十四日 水曜日 曇

今日は、灰色の空、雪空みだいた。今にも何か雪でも降つて来さうだ。

普通に授業。授業をしてゐても、とても寒い。

晝食後、お炊事場大掃除のお手伝ひをした。女の先生方總動員だ。をけおひつものけて、すみからすみまで、きれいにした。天井のすすも取った。

お臺所らしく、とてもきれいなお炊事場になった。



十一月十五日 木曜日 雨

雨だ。一時間目は、待ちに待った体重測定。いさなではかりの上につたが、ふえてなかつた。ずうつと、おなかをこはしてゐるからだ。早くなほして、来月は、きつとふやさう、でも、へらなくてよかつた。八、九、十、十一と、ずうつと同じだ。ふやさなきや。歸るまでにまるく

午後、順番に、床屋さんに行つた。毛がど

少なくなつて、さつぱりしたが、後がずうつとして、寒い。

夜、娯樂會の練習をした。

私は、解説だ。

十一月十六日 金曜日 雨

午前中は、授業。おせわになつてゐる

晝食がすんでから、今晚は、町の方をおまねきするので、先生方は、とてもおおいそがしいので、六年女子は、お手傳ひをした。

た。松村さんのお家から、食器を運んだ。あとは、劇のま

う練習。

夜、私達だけ先に寮へ歸つ

た。歸つて見ると、小包が来てゐ

た。早く中が見たい。

みんなまるくなつて、算敷を





した。今度「七」の考査があるのだ。寒いので毛布をかぶってした。むづかしいところはみんなて考へてした。

夜、おこたに入ってから寝た。おこたは、とても暖かい。

十一月十七日 土曜日 雨

午前中は、授業。午後から娯樂會があつた。私達は一番最後。彌次さん喜多さんだ、一生懸命した。みんな先生も、おもしろさうにわあく笑つてゐる。とてもうまく出来たらしい。よかつた。すんでから、討論會をした。田舎と都だ。私は、田舎組だ。始めてなのでよく、わからなかつた。あんかが来た。

夜、寮舎へ歸つて、高田先生に、算數のわからない所を教へて頂いた。算數は、大事だ。よく出来るやうにしくちや。

十一月十八日 日曜日 雨

お腹がなほつた。今まで長いことこはしてゐたので、もうほんたうになほらないかと思つて、とても心配だつたがなほつて、ヤツと安心だ。ああよかつた。うれしい。

二時間、目後は、お裁縫室に行つて、ずうっと算數をした。あまり考へると頭が痛くなつてし



まふ。

急に、大島さんのお母様がいらして、大島さんは、二三日田舎へ歸ることになった。

夜、寮に歸ると、火鉢に火が起つてゐた。みなで、火鉢をかこんであつた。とても暖かい。並木先生が、「今度、お學校やめて家へ歸るの。とおつしやつたのでびつくりした。もうあさつてお歸りになるのださうだ。ほんたうにつまらないなあ。さびしくなる。

十一月十九日 月曜日 晴

久しぶりにとてもよいお天氣だ。休養日。午前中、寮舎へ歸つて、お洗濯をした。



た。川の水は、とてもつめた。日當りがいいのでローカへ机を出して、日記を書いたりした。午後、寮におた。並木先生は、一生懸命荷づくりをしていらつしやる。

夜、みんなで火鉢をかこんで先生、おわかれに、三年生から歌をうたつた。火にはおな

べをにかけて、おいもをにながら。……  
かうして、火鉢をかこみ、樂しくしてゐるのも並木先生とは、最後だ。私は、「郷里・椰子の實」

の歌をうたった。

大人になつても、「ああ、あの晩は先生と一しよ  
に、火鉢をかこんで、**あ**ういふふうにしたんだなあ  
といふ事は、わすれられない。

十一月二十日 火曜日 晴

今日も、よいお天気だ。おいものふかしたのを  
お辨當に持ち、桑山と、医王山との間の、をま  
たといふところへ、行軍した。あんがい近く、す  
ぐ着いた。

とても景色がいい。この山



の間から見え  
る向ふの山。そ  
の向ふに真  
白見える日本  
アルプス。小さな福  
光町。とてもき  
れいだ。鳥山  
や石切場も見  
た。こつこつ／＼や  
つていらつしやる。  
この石は



こころなどにするのださうだ。  
歸つてから、並木先生にさしあ  
げるしをりを  
作つた。

夕食前、驛までお送りしに行つた。  
ほんたうに  
もうおわかれだ。汽車が見えな  
くなるまで、一生

懸命手をふつた。

夜は、もう並木先生もいらつし  
やらないし、大島  
さん、もいらつしやらないので、  
たつた八人。とてもさ  
びしい。早く歸つてらつしや  
らないかな。

十一月二十一日 水曜日 曇雨

午前中は、大根の追肥作業。  
これで最後の  
だ。どのくらゐになつたかな  
と思つて行つて見ると、  
うれしい。思つてゐたよりも  
大きい。大きいのは、直径  
五六センチくらいある。ま  
づまびきした。大きいとく  
つてゐても、取るのがをし  
い気がする。肥は、本  
田寮からかついた。大分な  
れてうまくなつた。

とても、寒い。午後寮舎へ  
歸つてあ

んかに入つた。きれいに  
ふいてから  
火をいれた。とても暖かい。

又しぼりに、みなで、ト  
ランプ  
をして遊んだ。

おなべで、にたおいもを、  
二さ  
じつ取つてまはした。

こつこつといふことも、  
とても楽しい  
思ひ出だ。



冬も楽しく過ごさう。夜、  
大島さんが、歸  
つていらつしやつた。をば  
様もいらして、とても  
にぎやかだ。並木先生のか  
はり先生は、いらつしや  
らないさうだ。九人家族で  
仲よく冬ご

し。うれしいな。

十一月二十二日

久しぶりに、授業。四五年は山田村へ野菜を取りに行き、先生方がついていらつしゃつたので、國語のほかは、全分自習だった。四時間目、四五年の運んで来たお野菜を、ローカに運んだ。雨の中、ほんたうに御苦勞様だ。

午後、寮舎へ歸つて、火鉢に當りながら日記を書いた。夜は、あんかに入つてあみ物。先生のくつ下を、一生懸命あんだ。もう少しで出来る。あと三日へらせば出来上りといふところで、時間になつてしまった。残念。

十一月二十三日 金曜日 晴

新嘗祭、お休みだ。でも、五六年女子は器用な手で、大根の葉をあむことになった。ずりきも皮をむいてあんだ。とてもうまくつた。きゅうつきゅつあめる。あむのがおもしろくてたまらない。



午後、寮舎へ三部六年を呼んだ。私達が寮舎へ歸るとすぐ遊びに来た。お部屋が、とてもにぎやかになった。いつもよくしゃべるのに、とてもおとな

しくてとてもお行儀がいい。何だか、かはいらしい気がする。おいもを蒸して御ち走し上げて上げた。圓くなつて、本を讀んだりお話したりして、楽しく午後を送った。みんな、とても喜んでゐたのでうれしかった。又、よんで上げやう。

十一月二十四日 土曜日 晴

とてもよいお天気だ。井波へ行軍。お辨當をつめてすぐ出發した。吾江校を通り、畠道を、どんどん歩いて行つた。いくつも神明社を通つてやつと高瀬神社についた。本殿はまだ出来てなく、かり御殿だ。お祭りしてあるのは、大國主神ださうだ。境内でお辨當を頂いた。そこでしばらく休んでから、井波の町へ向つた。高瀬神社から見ると、紅葉された木々につつまれた町が見える。川にそつて歩いて行つた。

とてもきれいな町だ。町を通つて別院についた。とても大きくてりっぱなお寺なのでびっくりした。

名前は、瑞泉寺。



礪波で一番大きなお寺ださうだ。廣い境内で二三十分休んだ。休みながら、ようくお寺を眺めた。門のかはらには、全分、瑞泉寺と書いてある。すぐ前は山だ。

ここを動くのがいやになつてしまった。名ごりをしみながら、歸つた。とてもつかれた。よく歩いて来たものだと思心する。

明日は晴れても休養になつた。うれしい。十一月二十五日 日曜日 曇

休養日。ゆつくり休まう。午前中は、机を出して日記を書いたりした。十時半ごろ、吉田さんのお母様が面會にいらした。火鉢に當つてお話したりした。

午後は、おこたに入つて本を讀んだ。とても暖かい。

夜、お風呂に入った。とてもいいお湯だ。氣持がよい。ふとんの中に入るとぼかしくして来た。すぐねてしまった。

十一月二十六日 月曜日 曇

六年生は、山田村へ、大根運び。男の先生と一しよに行つた。車を二臺持つて行つた。山田村と書いてある所を右に折れて、畠道を行くと、そのお百姓さんの家についた。一臺をおかりして、三臺とも大根が満載。男の先

生がお引きになる。

私は、阿部

先生の車の

あと押しを

した。よ

うい

と

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

「三」



百屋みたいた。西尾寮へ運んだ。今日のは、みな、とてもいいお大根だ。午後、先生のおむきになつた柿を糸でむすんでつるした。竹が一ぱいになつた。

十一月二十七日

今日は、雨だ。三日目のお授業。三時間目は、算数の考査があつた。私は、九十点だつた。しつかり勉強しよう。

午後、おこたに入つて、二十九日の娯樂會にする物を考へた。一休さんをするこにしよう。もう練習をした。私は、言ふこ

を一生懸命おぼえた。夜、けんちん汁を出して下さつた。暖かく

とてもおいしい。

十一月二十八日 水曜日 晴

算数の時間は今日からいよいよ「ハ」に入  
った。最後の本だ。しっかりと勉強して行かう。  
今日はとても寒い。外たう着たいくらみだ。  
でも十一月は頑張らう。寒いので

晝食がすんでから、寮に飛んで歸って。  
おこたにもぐりこんだ。とても暖かい。おこ  
たに入って、お母様とお兄様と、高橋さん  
へお便りを書いた。これから、自由に出し  
てもよいのだ。うれしいな。

夜、みんなで、ナポレオンを  
して遊んだ。

明日は、もう開校記念日  
だ。娯樂會私達は、しなくて  
もよいことになった。

一休さんは、來月だ。

十一月二十九日 水曜日 晴

今日は、開校記念日。七十一周年だ。  
からりと晴れて、雲一つない。とてもよいお  
天氣だ。私は、校服を着て行った。

お授業はなし。

すぐ寮舎へ歸って、お洗濯をした。いっ  
ぱい洗った。このやうな日にしなくては、



きつとよくかくだらう。すんでから、日向  
に三脚を出して、日向ぼっこをしながら本  
を讀んだ。ぼかぼかして、とても暖かい。う  
んと、日光浴だ。

夕食は、今日の開校記  
念日のお祝に、御ち  
走があつた。お大  
根のおなますとても  
おいしかった。

先生方も、いろいろな歌をおうたひにな  
つた。とても楽しかった。

十一月三十日 金曜日 曇

どんより曇ってゐる。昨日お洗濯して  
ほんたうによかつた。

もう今日で今月もおしまひ。

お習字の時間は、お清書をした。「見張  
舟」立雲だ。

お父様とお兄様からお便りが來た。

午後は、寮舎へ歸った。これから日曜日の  
ほかは、三時まで、目學時間で、だまって勉  
強。あとはあみ物をしたりいろいろなお話  
をしたりして遊ぶといふことにきまつた。

目學時間は、おこたを出し、机を出して、  
算数の勉強。日記を書いたりした。



そのあとはおこたに入つて、あみ物をした。  
今度は、くつ下をあみ出した。お正月には  
くつもりだ。きれいにあまう。

今日、今月で、この日記帳は、終つた。記  
念の日記帳、大切にしまつておかう。  
大人になつてから出してみるん  
だなあ。

曜日と天候はともかく、けつまりあまう  
なまい。



食べ物日記にならなう様に、其他はあまう  
事はありませぬ。右様まつた。努力をまわし  
また一冊のあつた事も、くれぐれ思ひまう。ふた  
續く日記も、怠らなう、あつたなまい。